

平成29年度千葉大学大学院
医学薬学府
博士課程（4月入学第2回）
学生募集要項

平成28年11月

千葉大学

目 次

4年博士課程

1. 募 集 人 員	1
2. 出 願 資 格	1
3. 出願資格の審査・認定	3
4. 出 願 手 続	3
5. 出願書類等	4
6. 選抜方法等	5
7. 注 意 事 項	6
8. 合格者発表	7
9. 入 学 手 続	7

後期3年博士課程

1. 募 集 人 員	9
2. 出 願 資 格	9
3. 出願資格の審査・認定	10
4. 出 願 手 続	10
5. 出願書類等	11
6. 選抜方法等	12
7. 注 意 事 項	13
8. 合格者発表	13
9. 入 学 手 続	13

医学薬学府案内	15
開設授業科目並びに指導教員	20
医学薬学府指導教授別研究テーマ	24

平成29年度 千葉大学大学院医学薬学府 4年博士課程（4月入学第2回）学生募集要項

1. 募集人員

専攻名	募 集 人 員			
	平成29年度4月入学		平成29年度10月入学	計
	第1回	第2回		
先端医学薬学専攻	52名	50名	若干名	108名
先進予防医学共同専攻	10名	若干名	若干名	10名

注¹：4年博士課程は、先端医学薬学専攻が医学及び薬学領域、先進予防医学共同専攻が医学領域で構成されています。本募集要項は、主たる指導を医学領域又は薬学領域のいずれの指導教授があたるかで出願手続きが異なるため、出願に際して志望する領域を「医学領域」及び「薬学領域」に区分していますので、留意してください。

本学大学院博士前期課程又は修士課程を平成29年3月に修了見込みの者は、学内進学者の取扱いになりますので、「6. 選抜方法等」は、本募集要項の6ページをご覧ください。

2. 出願資格

出願できる者は、次の各号の一に該当する者とします。

- (1) 大学（学校教育法第83条に定める大学をいう。以下同じ）の医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程を卒業した者及び平成29年3月までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者
- (5) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が5年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月までに学士の学位に相当する学位を授与される見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和30年文部省告示第39号）
 - ① 修士課程を修了した者（平成29年3月までに修了見込みの者を含む。）及び修士の学位又は専門職学位の授与を受けることのできる者
 - ② 防衛省設置法（昭和29年法律第164号）による防衛医科大学校を卒業した者（平成29年3月までに卒業見込みの者を含む。）
 - ③ 旧大学令（大正7年勅令第388号）による大学の医学又は歯学の学部において医学又は歯学を履修し、これらの学部を卒業した者
 - ④ 前期2年及び後期3年の課程の区分を設けない博士課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必

要な研究指導を受けた者（学位規則の一部を改正する省令（昭和49年文部省令第29号）による改正前の学位規則（昭和28年文部省令第9号）第6条第1号に該当する者を含む。）で本学府において、医学又は歯学の学部を卒業した者（医学又は歯学を履修した者に限る。）と同等以上の学力があると認めた者

- ⑤ 大学（医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程を除く。）を卒業し又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学府において、当該研究の成果等により、大学の医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(7) 次のいずれかに該当する者であって、本学府において、所定の単位を優れた成績で修得したと認めた者

- ① 大学（医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程に限る。）に4年以上在学した者
- ② 外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校における16年の課程（医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者
- ④ 我が国において、外国の大学の課程（医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程を含むものに限り、かつ、その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

(8) 本学府において、個別の入学資格審査により、大学の医学、歯学、薬学（修業年限が6年であるものに限る。）又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者及び平成29年3月までに24歳に達する者

備 考

(1) 出願資格の概要

上記の出願資格は、概ね次の①から③の3項目に区分できます。

- ① 6年制の大学を卒業又は平成29年3月までに卒業見込みの者
- ② 修士課程を修了又は平成29年3月までに修了見込みの者
- ③ 上記の①又は②と同等以上の教育、又は経歴を有する者

出願資格の確認を要する場合は、本大学院（医学部大学院学務係又は薬学部学務係）に照会してください。

(2) 医学領域志願者留意事項

- ① 医学以外の大学を卒業し、修士課程を修了した者及び平成29年3月までに修了見込みの者、又は修士の学位の授与を受ける見込みの者の出願資格については、あらかじめ本大学院（医学部大学院学務係）まで照会してください。
- ② 臨床系に出願する者は医師国家試験の合格を必要条件とする場合がありますので、指導教授まで照会してください。

3. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(6)の④, ⑤, (7), (8)により出願しようとする者は、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

(1) 提出書類

	提出書類	摘 要
1	入学試験出願資格認定申請書	本大学院所定の用紙
2	在職証明書	大学・研究所等発行のもので、研究歴を証明する書類
3	研究業績調書	本大学院所定の用紙
4	卒業(修了)証明書	出身大学(学部, 研究科)長等が証明したもの。
5	成績証明書	出身大学(学部, 研究科)長等が証明したもの。
6	履歴書(外国人用)	本大学院所定の用紙
7	入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙

(2) 提出期間

平成28年11月29日(火)から平成28年12月1日(木)まで(必着)

持参の場合は、9時から17時までです。(12時から13時までを除く。)

郵送の場合は、必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府4年博士課程出願資格審査書類在中」と朱書して、最終日17時までに必着するように送付してください。

どちらの場合も提出期間内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出場所

願書提出先とします。

(4) 結果通知

審査・認定の結果は、平成28年12月22日(木)までに本人宛通知します。

4. 出願手続

(1) 出願受付期間

平成29年1月4日(水)から平成29年1月6日(金)まで(必着)

持参の場合は、9時から17時までです。(12時から13時までを除く。)

郵送の場合は、必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府4年博士課程入学願書在中」と朱書して、最終日17時までに必着するように送付してください。

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

注：応募に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する指導教授に必ず照会の上、出願してください。

(2) 願書提出先

- ① 医学領域志願者 千葉大学医学部大学院学務係
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
- ② 薬学領域志願者 千葉大学薬学部学務係
〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号

5. 出願書類等

志願者は下記書類を提出してください。

	出 願 書 類 等	摘 要
1	入学願書・受験票・写真票	本大学院所定の用紙
2	検定料 (30,000円) ※右記のとおり振込みとなります。	●日本国内在住の志願者 出願前に本募集要項の指定用紙（振込依頼書）にて銀行等（<u>ゆうちょ銀行を除く。</u>）で振り込んでください。（自動振込機は使用せず、必ず窓口で振り込んでください。）振込手数料は本人負担となります。 また、振込証明用「貼付用（大学提出用）」は金融機関から受領した際に必ず<u>取扱金融機関の出納印を確認</u>の上、願書裏面の貼り付け欄にのり付けしてください。 なお、<u>学内進学者及び外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費外国人留学生は不要です。</u> ●海外在住の志願者 この募集要項に添付された所定用紙の「振込依頼書」は、日本国内の銀行のみ使用可能です。日本国内に知人等がない場合は、クレジットカード決済により、検定料30,000円の払込手続きをしてください。なお、検定料の払込手続きは出願前に済ませてください。 (1) 千葉大学ホームページ (http://www.chiba-u.jp) の＜受験生の皆様へ＞にアクセスし、＜入試案内＞→＜海外からの検定料支払い＞により検定料払込手続きを行ってください。 (2) 検定料の払込手続き終了後、千葉大学より申込内容確認のメールが送信されます。内容を確認後、<u>そのメールを担当係へ転送してください。</u> 注1. 入学願書の裏面にある「検定料納入方法」の「クレジットカード決済」欄にチェックを入れてください。 注2. クレジットによる検定料の払込手続き期間は、平成28年12月5日（月）～平成29年1月6日（金）までです。なお、出願書類を提出する前に払込手続きをしてください。 注3. 利用できるクレジットカードの種類については、検定料払込手続きの際にホームページで必ず確認してください。 ※いったん納入した検定料は原則として返還しませんが、検定料を誤って振り込み、出願しなかった者が平成29年3月31日（金）17時までには所定の返還手続きを行った場合は、検定料の全額を返還しますので、志望領域の事務担当者に確認して下さい。
3	卒業・修了（見込）証明書 （出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）	出身大学（研究科）長が証明したもの。（本学医学部及び薬学部（修業年限が6年であるものに限る。）卒業生、医学薬学府修士課程修了者及び薬学研究科博士前期課程修了者は不要。） なお、2. 出願資格(4)により出願する者は、学部の卒業証明書とします。 また、2. 出願資格(5)及び(6)により出願する者は、最終学歴の証明書とします。
4	成績証明書 （出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）	出身大学（学部・研究科）長が証明したもの。（本学医学部及び薬学部（修業年限が6年であるものに限る。）卒業生、医学薬学府修士課程修了者及び薬学研究科博士前期課程修了者は不要。） また、外国において修士の学位に相当する学位を授与された者は「成績証明書」と「学位記」の写しを添付してください。
5	修士の学位論文 （薬学領域志願者のみ）	修士課程を修了した者は、1部提出してください。
6	修士論文（又はそれに相当するもの）の要旨	A4判縦長横書きで1枚とし、1部提出してください。 ただし、医学領域志願者は、6ページ(2)学内進学者のみ提出してください。

	出 願 書 類 等	摘 要
7	研究業績調書 (医学領域志願者のみ)	本大学院所定の用紙（6. 選抜方法等(1)又は(2)の①により出願する者は、提出不要。）
8	写真（2枚）	出願前3カ月以内に撮影（上半身，正面，脱帽）のもの。 (縦4cm×横3cmを受験票・写真票に貼付する。)
9	受験票送付用封筒	長型3号封筒（23.5cm×12cm）に郵便番号，住所，氏名を明記し，郵便切手（82円分）を貼り同封してください。
10	履歴書（外国人用）	本大学院所定の用紙（出願資格審査時に提出済の場合，再提出不要。）
11	住民票 (外国人志願者のみ)	市区町村長が交付したもの。（在留期間，在留資格が明記してあるもので，個人番号（マイナンバー）が記載されていないもの。） なお，外国人登録をしていない者は，提出不要。
12	パスポートの写し (外国人志願者のみ)	氏名等が記載されているページの写し。
13	誓約書 (医学領域志願者のみ)	医師免許証のない者で臨床系に出願の者は誓約書（本大学院所定の用紙）を提出してください。
14	入試関係通知書等受取先住所 シール	本大学院所定の用紙（出願資格審査時に提出済の場合，再提出不要。）

6. 選抜方法等

選抜は，学力検査及び成績証明書等を総合して判定します。

なお，「本学大学院博士前期課程又は修士課程において平成29年3月に修了見込みの者」が本課程に進学を志望する場合は，6ページ(2)により選考します。この場合は，検定料は不要です。

(1) 入学志願者

① 試験科目 1 志望する専門科目（筆答試験）

2 外国語〔英語（英語一般），専門英語（医学英語），専門英語（薬学英語）のうちから1科目を選択〕

外国語の試験には，辞書（語学辞書に限る。）の使用を認めます。ただし，電子辞書及び医学用語辞典等の専門用語辞典の使用は認めません。

3 面接試験

② 試験日時・場所

志望専攻	月 日	時 間	科 目	場 所
先端医学薬学専攻 先進予防医学共同専攻	平成29年 1月26日（木）	10：30～11：30	専門科目	千葉大学 亥鼻キャンパス
		13：30～14：30	外国語	
		15：00～	面接試験	

(2) 学内進学者

選考方法を「① 医学薬学府修士課程からの進学者」と「② 医学薬学府修士課程以外の研究科からの進学者」に区分しています。

① 医学薬学府修士課程からの進学者

(i) 選考方法 修士論文の要旨及び面接試験を総合して判定します。

(ii) 選考日時・場所

<医学領域志願者>

志望専攻	月 日	時 間	科 目	場 所
先端医学薬学専攻 先進予防医学共同専攻	平成29年 1月26日（木）	15：00～	面接試験	千葉大学医学部

<薬学領域志願者>

志望専攻	月 日	時 間	科 目	場 所
先端医学薬学専攻	平成29年 1月26日（木）	9：30～	面接試験	千葉大学薬学部

② 医学薬学府修士課程以外の研究科からの進学者

(i) 選考方法

試験科目 1 志望する専門科目（筆答試験）

2 外国語〔英語（英語一般）、専門英語（医学英語）、専門英語（薬学英語）のうちから1科目を選択〕

外国語の試験には、辞書（語学辞書に限る。）の使用を認めます。ただし、電子辞書及び医学用語辞典等の専門用語辞典の使用は認めません。

3 面接試験

(ii) 選考日時・場所

志望専攻	月 日	時 間	科 目	場 所
先端医学薬学専攻 先進予防医学共同専攻	平成29年 1月26日（木）	10：30～11：30	専門科目	千葉大学 亥鼻キャンパス
		13：30～14：30	外国語	
		15：00～	面接試験	

7. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、受験票送付の際に同封するとともに、平成29年1月25日（水）10時に医学領域は医学部掲示板に、薬学領域は薬学部掲示板に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来校はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電話等による可否の問合せには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報は入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

8. 合格者発表

平成29年2月17日（金）13時

医学領域は医学部掲示板に、薬学領域は薬学部掲示板に発表する（掲示期間は3日間）とともに、合格者には合格通知書を交付します。

9. 入学手続

(1) 入学手続期間 平成29年3月14日（火）から平成29年3月15日（水）まで

(2) 入学手続場所 医学領域合格者は、千葉大学医学部

薬学領域合格者は、千葉大学薬学部

(3) 入学手続の際に納入する経費

入学手続の際には、次の経費が必要です。

入 学 料	学生保健互助会費	学生教育研究災害傷害保険料 (学研災付帯賠償責任保険含む)	合 計
282,000円	4年分 8,000円	医学領域 4年分 5,300円	295,300円
		薬学領域 4年分 4,660円	294,660円

(注意)

- 1 入学料の納入については、入学手続時に納入願います。
- 2 授業料の納入については、入学後の前期分授業料は5月に、後期分授業料は10月に口座引落としにより納入願います。口座引落手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。
なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ260,400円（年額 520,800円）です。
また、入学して2年目から、前期分授業料は4月が口座引落としの月となります。
- 3 入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。
- 4 入学料及び授業料が免除される制度があります。
詳細は、千葉大学ホームページ
<http://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/payment/exemption.html> をご覧ください。
入学料及び授業料免除に関する問い合わせ先
学務部学生支援課 電 話 043-290-2178
- 5 学生保健互助会費（疾病負傷の際に相互に救済し、進んで健康保持に寄与することを目的としております。）及び学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料（正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。）は、平成29年3月31日（金）までに郵便局又はゆうちょ銀行で払い込んでください。
詳細は、学務部学生支援課へ問い合わせてください。
電 話 043-290-2220（学生保健互助会）
電 話 043-290-2162（学生教育研究災害傷害保険）
- 6 入学料については、本大学院博士前期課程又は修士課程を平成29年3月に修了見込みの者は、必要としません。（6ページ「6. 選抜方法(2)」により志願した者）
- 7 外国人合格者で日本政府（文部科学省）国費留学生は入学料、授業料は必要ありません。
- 8 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- 9 入学手続完了者が平成29年3月31日（金）17時までに入学を辞退した場合には、申し出により既に納入済の学生保健互助会費及び学生教育研究災害傷害保険料を返還します。

(4) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。この選考は、学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等審査のうえ、日本学生支援機構に推薦するものです。

(5) 提出書類、その他入学手続上の詳細は、合格者本人に別途通知します。

【問い合わせ先】

医学領域志願者：〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
千葉大学医学部大学院学務係
電話 043-226-2009
E-mail sah5234@office.chiba-u.jp

薬学領域志願者：〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号
千葉大学薬学部学務係
電話 043-226-2862
E-mail yakugaku-in@chiba-u.jp

電話での問合せは、9時から17時までです。

ただし、土・日曜日・祝日は除きます。

郵送で問合せる場合は、住所を明記し82円切手を貼付した返信用の封筒を同封してください。

平成29年度 千葉大学大学院医学薬学府 後期3年博士課程（4月入学第2回）学生募集要項

1. 募集人員

専攻名	募 集 人 員			
	平成29年度4月入学		平成29年度10月入学	計
	第1回	第2回		
先端創薬科学専攻	6名	7名	若干名	15名

本学大学院博士前期課程又は修士課程を平成29年3月に修了見込みの者は、学内進学者扱いになりますので、「6. 選抜方法等」は、本募集要項の12ページ(2)をご覧ください。

2. 出願資格

出願できる者は、次の各号の一に該当する者としてします。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び平成29年3月までに授与見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月までに授与見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月までに修士の学位に相当する学位の授与を受けることのできる者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び平成29年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、上記出願資格(4)の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者及び平成29年3月までに認められる見込みの者で、本学府において修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (7) 次のいずれかに該当する者であって、その後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学府において、当該研究の成果等により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
 - ① 大学を卒業した者
 - ② 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校における16年の課程を修了した者
- (8) 本学府において、個別の入学資格審査により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者及び平成29年3月までに24歳に達する者

3. 出願資格の審査・認定

2. 出願資格(4), (6), (7), (8)により出願しようとする者は、次のとおり出願資格の審査・認定を行います。

ただし、(8)の資格の者であって大学の医学、歯学又は獣医学を履修する課程を卒業した者は、出願資格の認定を受ける必要はありません。

(1) 提出書類

	提出書類等	摘要
1	入学試験出願資格認定申請書	本大学院所定の用紙
2	在職証明書	大学・研究所等発行のもので、研究歴を証明する書類
3	研究業績調書	本大学院所定の用紙
4	卒業（修了）証明書又は最終学歴の証明書	出身大学（学部、研究科）長が証明したもの。 なお、2. 出願資格(4)により出願するものは、学部の卒業証明書とします。 また、2. 出願資格(6), (7), (8)により出願するものは、最終学歴の証明書とします。
5	成績証明書	出身大学（学部、研究科）長が証明したもの。
6	履歴書（外国人用）	本大学院所定の用紙
7	入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙

(2) 提出期間

平成28年11月29日（火）から平成28年12月1日（木）まで（必着）

持参の場合は、平日の9時から17時までです。（12時から13時までを除く。）

郵送の場合は、必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府後期3年博士課程出願資格の審査書類在中」と朱書きして、最終日17時までに必着するように送付してください。

どちらの場合も提出期限内に到着しない場合は、受理しません。

(3) 提出先

願書提出先とします。

(4) 結果通知

審査・認定の結果は、平成28年12月22日（木）までに本人宛通知します。

4. 出願手続

(1) 出願受付期間

平成29年1月4日（水）から平成29年1月6日（金）まで（必着）

持参の場合は、9時から17時までです。（12時から13時までを除く。）

郵送の場合は、必ず簡易書留とし、封筒の表に「医学薬学府後期3年博士課程入学願書在中」と朱書きして、最終日17時までに必着するように送付してください。

どちらの場合も受付期間内に到着しない場合は、受理しません。

(2) 願書提出先 千葉大学薬学部学務係 〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号

注：出願に際しては、あらかじめ主たる指導を希望する指導教授に必ず照会の上、出願してください。

5. 出願書類等

志願者は下記書類を提出してください。

	出 願 書 類 等	摘 要
1	入学願書・受験票・写真票	本大学院所定の用紙
2	検定料 (30,000円)	●日本国内在住の志願者 出願前に本募集要項の指定用紙（振込依頼書）にて銀行等（ゆうちょ銀行を除く。）で振り込んでください。（自動振込機は使用せず、必ず窓口で振り込んでください。）振込手数料は本人負担となります。 また、振込証明用「貼付用（大学提出用）」は金融機関から受領した際に必ず取扱金融機関の出納印を確認の上、願書裏面の貼り付け欄にのり付けしてください。 なお、学内進学者及び外国人志願者のうち日本政府（文部科学省）国費外国人留学生の者は不要です。 ●海外在住の志願者 この募集要項に添付された所定用紙の「振込依頼書」は、日本国内の銀行のみ使用可能です。日本国内に知人等がない場合は、クレジットカード決済により、検定料30,000円の払込手続きをしてください。なお、検定料の払込手続きは出願前に済ませてください。 (1) 千葉大学ホームページ（http://www.chiba-u.jp）の＜受験生の皆様へ＞にアクセスし、＜入試案内＞→＜海外からの検定料支払い＞により検定料払込手続きを行ってください。 (2) 検定料の払込手続き終了後、千葉大学より申込内容確認のメールが送信されます。内容を確認後、そのメールを担当係へ転送してください。 注1. 入学願書の裏面にある「検定料納入方法」の「クレジットカード決済」欄にチェックを入れてください。 注2. クレジットによる検定料の払込手続き期間は、平成28年12月5日（月）～平成29年1月6日（金）までです。なお、出願書類を提出する前に払込手続きをしてください。 注3. 利用できるクレジットカードの種類については、検定料払込手続きの際にホームページで必ず確認してください。 ※いったん納入した検定料は原則として返還しませんが、検定料を誤って振り込み、出願しなかった者が平成29年3月31日（金）17時までには所定の返還手続きを行った場合は、検定料の全額を返還しますので、薬学部学務係に確認してください。
3	卒業・修了（見込）証明書 （出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）	出身大学（研究科）長が証明したもの。（本学医学部卒業者、医学薬学府修士課程修了者及び薬学研究科博士前期課程修了者は不要。） なお、2. 出願資格(2)により出願する者は、「学位記」の写しを添付してください。 また、2. 出願資格(4)により出願する者は、学部の卒業証明書とし、2. 出願資格(6), (7), (8)により出願する者は、最終学歴の証明書とします。
4	成績証明書 （出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）	出身大学（研究科）長が証明したもの。（本学医学部卒業者、医学薬学府修士課程修了者及び薬学研究科博士前期課程修了者は不要。）
5	修士の学位論文	修士課程を修了した者は、1部提出してください。
6	修士論文（又はそれに相当するもの）の要旨	A4判縦長横書きで1枚とし、3部提出してください。

	出 願 書 類 等	摘 要
7	修士論文（又はそれに相当するもの）の図表	A 4 判10枚以内とし、3部提出してください。 （ただし、本学大学院医学薬学府修士課程を平成29年3月に修了見込の者は、提出不要。）
8	写真（2枚）	出願前3カ月以内に撮影（上半身、正面、脱帽）のもの。 （縦4cm×横3cmを受験票・写真票に貼付する。）
9	受験票送付用封筒	長型3号封筒（23.5cm×12cm）に郵便番号、住所、氏名を明記し、郵便切手（82円分）を貼り同封してください。
10	履歴書（外国人用）	本大学院所定の用紙（出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）
11	住民票 （外国人志願者のみ）	市区町村長の交付したもの。（在留期間、在留資格が明記してあるもので、個人番号（マイナンバー）が記載されていないもの。） なお、外国人登録をしていない者は、提出不要。
12	パスポートの写し （外国人志願者のみ）	氏名等が記載されているページの写し。
13	入試関係通知書等受取先住所シール	本大学院所定の用紙（出願資格審査時に提出済の場合、再提出不要。）

6. 選抜方法等

- (1) 選抜は、修士論文（又はそれに相当するもの）の審査、出身学校の学業成績、外国語、面接試験、専門科目及び関連科目を総合して判定します。

(i) 試験科目 1 外国語（薬学英语）

2 面接試験、専門科目及び関連科目

(ii) 試験日時・場所

月 日	時 間	科 目	場 所
平成29年 1月26日（木）	13：30～14：30	外国語	千 葉 大 学 亥 鼻 キ ャ ン パ ス
	15：00～	面接試験、専門科目及び関連科目	

（注1）外国語の試験には、辞書（語学辞書に限る。）の使用を認めます。ただし、電子辞書及び専門用語辞典の使用は認めません。

（注2）専門科目及び関連科目は、修士論文（又はそれに相当するもの）の内容について、口述試験を行います。
口述試験は出願時に提出していただいた図表にてプロジェクターを使用し、プレゼンテーションを行います。

試験当日は、出願時に提出していただいた図表のデータとPCを忘れずに持参してください。

- (2) 「本学大学院博士前期課程又は修士課程を平成29年3月に修了見込みの者」が本課程に進学を志望する場合は、選考方法を「①医学薬学府修士課程からの進学者」と「②医学薬学府修士課程以外の研究科からの進学者」に区分しています。この場合は、検定料は不要です。

① 医学薬学府修士課程からの進学者

(i) 選考方法 修士論文要旨及び面接試験を総合して判定します。

(ii) 選考日時・場所

月 日	時 間	科 目	場 所
平成29年 1月26日（木）	9：30～	面接試験	千 葉 大 学 亥 鼻 キ ャ ン パ ス

② 医学薬学府修士課程以外の研究科からの進学者

- (i) 選考方法 面接試験、専門科目及び関連科目（口述試験）、修士論文（又はそれに相当するもの）の内容を総合して判定します。

(ii) 選考日時・場所

月 日	時 間	科 目	場 所
平成29年 1月26日（木）	15：00～	面接試験、専門科目及び関連科目	千 葉 大 学 亥 鼻 キ ャ ン パ ス

7. 注意事項

- (1) 入学試験に関する詳細については、受験票送付の際に同封するとともに、平成29年1月25日（水）10時に薬学部掲示板に掲示します。
- (2) 出願書類に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (3) いかなる理由があっても、出願手続き後の書類の変更、受理した出願書類の返却及び検定料の返還はしません。
- (4) 車での来学はできるだけ避けてください。
- (5) 入学願書等に虚偽の記載をした者は、入学後であっても入学の許可を取り消すことがあります。
- (6) 電話等による可否の問合せには一切応じません。
- (7) 入学者選抜の過程で収集した個人情報が入学者選抜の実施のほか、管理運営業務、修学指導業務、入学者選抜方法等における調査・研究に関する業務等を行うために利用します。

8. 合格者発表

平成29年2月17日（金）13時に薬学部掲示板に発表する（掲示期間は3日間）とともに、合格者には、合格通知書を交付します。

9. 入学手続

- (1) 入学手続期間 平成29年3月14日（火）から平成29年3月15日（水）まで
- (2) 入学手続場所 千葉大学薬学部
- (3) 入学手続の際に納入する経費

入学手続の際には、次の経費が必要です。

入 学 料	学生保健互助会費	学生教育研究災害傷害保険料 (学研災付帯賠償責任保険含む)	合 計
282,000円	3年分 6,000円	3年分 3,620円	291,620円

(注意)

- 1 入学料の納入については、入学手続時に納入願います。
- 2 授業料の納入については、入学後の前期分授業料は5月に、後期分授業料は10月に口座引落としにより納入願います。口座引落手続等についての詳細は入学手続の際に改めてお知らせします。
なお、前期分・後期分授業料はそれぞれ260,400円（年額 520,800円）です。
また、入学して2年目から、前期分授業料は4月が口座引落としの月となります。
- 3 入学料及び授業料等の改定が行われた場合には、改定時から新入学料及び新授業料等が適用されます。
- 4 入学料及び授業料が免除される制度があります。

詳細は、千葉大学ホームページ

<http://www.chiba-u.ac.jp/campus-life/payment/exemption.html> をご覧ください。

入学料及び授業料免除に関する問い合わせ先

学務部学生支援課 電 話 043-290-2178

- 5 学生保健互助会費（疾病負傷の際に相互に救済し、進んで健康保持に寄与することを目的としております。）及び学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料（正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合には、改定時から新保険料が適用されます。）は、平成29年3月31日（金）までに郵便局又はゆうちょ銀行で払い込んでください。

詳細は、学務部学生支援課へ問い合わせてください。

電 話 043-290-2220（学生保健互助会）

電 話 043-290-2162（学生教育研究災害傷害保険）

- 6 入学料については、本大学院博士前期課程又は修士課程を平成29年3月に修了見込みの者は、必要としません。（12ページ「6. 選抜方法(2)」により志願した者）
- 7 外国人合格者で日本政府（文部科学省）国費留学生は入学料、授業料は必要ありません。
- 8 納入した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。
- 9 入学手続完了者が平成29年3月31日（金）17時までに入学を辞退した場合には、申し出により既に納入済の学生保健互助会費及び学生教育研究災害傷害保険料を返還します。

(4) 奨学金制度

日本学生支援機構において大学院学生に対する貸与制度があります。この選考は、学業成績及び研究能力、家庭の経済的事情等審査の上、日本学生支援機構に推薦するものです。

- (5) 提出書類、その他入学手続上の詳細は、合格者本人に別途通知します。

【問い合わせ先】

〒260-8675 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号

千葉大学薬学部学務係

電話 043-226-2862

E-mail yakugaku-in@chiba-u.jp

電話での問合せは、9時から17時までです。

ただし、土・日曜日・祝日は除きます。

郵送で問合せの場合は、住所を明記し82円切手を貼付した返信用の封筒を同封してください。

医学薬学府案内

1. アドミッションポリシー

本学府は医学薬学融合型の大学院として、医学・薬学並びに関連する専攻分野において、研究者として自立し研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うとともに、全人的視野に立った医療従事者、医学薬学の知識を持つ先端的生命科学研究者を育成することを目的としています。

そのために、本学府は次のような人の入学を求めています。

- 1) 豊かな基礎知識に裏付けられた広い視野と柔軟な思考力を備えた人
- 2) 責任感溢れる次世代のリーダーとなる熱意のある人
- 3) 生命科学を基礎として国際性豊かな独創性のある医学・薬学研究者を目指す人
- 4) 高度の専門技術と研究能力を備え、かつチーム医療を担える統合的視野をもった優れた先進的医療人を目指す人
- 5) 医薬品の創製とその臨床応用に貢献できる医学薬学研究者・教育者を目指す人

2. 教育課程及び担当教員等

医学薬学府の修士課程、4年博士課程及び後期3年博士課程は、それぞれ次の専攻・分野から構成されています。

修士課程

専攻	コース名	取得できる学位
医科学専攻	基礎医科学コース，展開医科学コース，社会医学コース	修士（医科学）
総合薬品科学専攻		修士（薬科学）

4年博士課程

専攻	コース名	取得できる学位
先端医学薬学専攻	先端生命科学（初期受け入れコース），免疫統御治療学，先端臨床医学薬学，がん先端治療学	博士（医学）又は博士（薬学）
先進予防医学共同専攻		博士（医学）

後期3年博士課程

専攻	コース名	取得できる学位
先端創薬科学専攻		博士（薬科学）

※4年博士課程においては、取得単位と学位論文の内容により、博士（医学）又は博士（薬学）のいずれかが取得できます。

各分野において開設している授業科目については、別表1「開設授業科目並びに指導教員」を参照してください。

また、学位論文の指導については、別表2「医学薬学府指導教授別研究テーマ」を参照してください。

3. 課程の修了要件及び履修方法

(1) 4年博士課程

[先端医学薬学専攻]

先端医学薬学専攻は、医学・薬学並びに関連分野において創造的、先端的研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識、全人的視野を有する医療従事者、生命科学研究者を育成することを目的としています。

① 修了要件

30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

② 履修方法

単位修得の認定は、試験又は研究報告等によって行う。

1) 博士（医学）の学位の授与を受ける場合の履修方法

特別研究6単位を含み、医学系個別領域科目14単位以上を修得すること。

2) 博士（薬学）の学位の授与を受ける場合の履修方法

特別研究6単位を含み、薬学系個別領域科目14単位以上を修得すること。

③ コース設定

1) 先端生命科学コース

生命科学の広範にわたる領域横断的講義と最先端の研究活動を通して、生命現象を包括的・総合的に理解するとともに広い視野で独創的な生命科学研究を展開し、人類の福祉に貢献できる人材の育成を目指しています。

2) 免疫統御治療学コース

免疫関連難治性疾患（がん、アレルギー、循環器疾患等）における免疫システムの統御機構を明らかにし、この原理に基づいた免疫治療を目指す免疫システム統御治療学を担う若手研究者の育成を目指します。世界水準の大学・研究所等の客員教員のもとでの海外研修も可能となっています。

3) 先端臨床医学薬学コース

自然現象のメカニズムの解明に加えて、生命の法則性を見出すために人を対象としたデータによる科学的なアプローチを実現する方法を学びます。このために、科学的な方法論に基づく臨床介入の効果の評価を学び、新たな課題と仮説を生みだし基礎研究に還元することに結びつけるような基礎科学と医療（臨床現場）の間で「知の循環」を図ることが最終的な目標です。

4) がん先端治療学コース

臨床腫瘍学の広範にわたる領域横断的・臓器横断的講義と最先端の研究活動を通じて、がん治療学を包括的・統合的に理解し実践できるとともに、基礎・橋渡し・臨床研究を通じて新しい治療法を開発する能力を身につけ、ヒューマニズムに溢れ、がん患者・家族の立場にたった医療者・研究者として人類の福祉に貢献できる人材の育成を目指しています。

[先進予防医学共同専攻]

先進予防医学共同専攻は、千葉大学、金沢大学、長崎大学の3大学による共同大学院で、従来の衛生学・公衆衛生学を基盤としながら、個人や環境の特性を網羅的に分析・評価し、0次予防から3次予防までを包括した「個別化予防」を実現する「先進予防医学」を掲げ、それを実践できる専門家を育成することを目的としています。

① 修了要件

35単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

② 履修方法

単位修得の認定は、試験又は研究報告等によって行う。

修了要件35単位のうち、31単位は必修であり、4単位は選択必修科目から修得すること。

また、それぞれの構成大学において10単位以上を修得すること。

(2) 後期3年博士課程

先端創薬科学専攻は、薬学並びに関連する専攻分野において、国際性豊かな独創的研究を展開し、医薬品の開発や臨床応用を通じて、人類の健康や福祉の促進に貢献することを目的としています。

① 修了要件

18単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。

② 履修方法

単位修得の認定は、試験又は研究報告等によって行う。

4. 大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例措置の導入について

大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、大学院設置基準第14条に基づき、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行う特例措置が認められています。

本大学院は、従来の医学領域及び薬学領域に加え、新しい医学薬学境界領域における学問に精通した研究者や高度の専門職業人の育成を目的として設立するところであり、この特例措置を導入し教育方法の弾力化を図り履修しやすい環境を整備した上で、既に教育研究の現場において活躍している人材や既に社会の第一線において活躍している社会人を積極的に受け入れていく方針です。

教育方法の特例措置は個々の修学体制に応じ授業科目の履修及び研究指導の計画を設定しますので、特例措置を適用して受け入れられる体制は研究室単位又は年度毎で状況が異なりますので、この特例措置を受けようとする志願者は、事前に志望する指導教授に当該研究室の受け入れ体制を照会のうえ、出願してください。

5. がんプロフェッショナル養成コース／がんプロフェッショナル養成基盤推進コース

〈医学領域〉

医学薬学府4年博士課程（医学領域）の学生のうち、特にがんの基礎・臨床研究を重点に置く学生は、「がんプロフェッショナル養成コース／がんプロフェッショナル養成基盤推進コース」（以下、「がんプロコース」という。）を選択することができる。このコースは、千葉大学・筑波大学・埼玉医科大学が共同で開発する「がんプロフェッショナル養成プラン／がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に基づくものであり、本コースを選択して博士課程を修了したものは、日本臨床腫瘍学会による「がん薬物療法専門医」などの受験資格審査に際して、本来5年間の研修期間が、4年間でも認められている。

本コースは専門科目の選択により、さらに5コースに分類される。

なお、コースの履修認定は「がんプロコース」責任者により行う。

○ 履修方法

- 1) 先端医学薬学専攻の学生は、博士課程修了要件30単位のうち、本コース共通科目の全て（8単位）及び専門科目のうちいずれか一つ（4単位）を履修し、単位を修得する必要がある。
- 2) これら12単位は全てe-ラーニングにて履修し、8大学共通の試験・レポートにより評価する。
- 3) 学生が将来希望する専門性により、専門科目の腫瘍外科学、臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、緩和医療学のうち、いずれか一つを選択履修する。
- 4) 専門科目として、臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、緩和医療学を選択した学生はその全ての講義（コマ）を受

講する必要がある。

- 5) 専門科目として、腫瘍外科学を選択した学生は、その中の必修コマを除き、他の専門科目、臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、緩和医療学の中のコマと交換して受講することが可能である。(例：呼吸器外科医の場合、必修コマ以外に、腫瘍外科学より「肺がん」、「胸壁・縦隔腫瘍」を選択し、腫瘍外科学のその他のコマを受講する代わりに、臨床腫瘍学の「肺がん（小細胞がん）」、「肺がん（非小細胞がん）」、「原発不明がん」、「胚細胞腫」、放射線腫瘍学の「肺がん（小細胞がん）」…などを受講することにより単位認定が可能となる。) この選択にあたっては、学生が受講計画書を「がんプロコース」責任者等に提出し、事前に了承を得る必要がある。
- 6) 同一コマに対して8大学により複数の講義が提供されている場合は、そのうち一つを選択して受講する。同一コマを二つ以上受講することも可能であるが、重複してコマ数にはカウントされない。
- 7) 「がんプロコース」履修者についても、修了（学位取得）のためには、一般の博士課程学生と同様の修了要件を満たす必要がある。ただし、「がんプロコース」科目を博士課程科目に含めることができる。
- 8) 「がんプロコース」履修者以外の学生についても、一科目単位で「がんプロコース」科目を履修することができる。その場合も、博士課程科目に含めることができる。
- 9) 先進予防医学共同専攻の学生は、博士課程科目に含めることはできない。
- 10) 本コースの全ての講義は、全ての大学院生（医学、薬学、看護学）が聴講可能であるが、登録が必要であり、eラーニングシステム利用のための個人ID、パスワードを各自で管理する責任を負う。

〈薬学領域〉

医学薬学府修士課程の学生、医学薬学府4年博士課程（薬学領域）の学生、あるいは医学薬学府後期3年博士課程の学生のうち、特にがんの基礎・臨床研究に重点を置く学生は、「国際協力型 がん薬学研究指導者コース」（以下、「がんプロコース」という。）を選択することができる。このコースは、筑波大学、千葉大学、群馬大学、埼玉医科大学、日本医科大学、獨協医科大学、茨城県立医療大学、群馬県立健康科学大学（計8大学）が共同で実施する「国際協力型がん臨床指導者養成拠点」事業に基づくものであり、本コースを選択して、修士課程、4年博士課程、あるいは後期3年博士課程を修了したものは、それぞれ、修士（薬科学）、博士（薬学）、あるいは博士（薬科学）の学位の授与を受けると共に、本コースの修了証を得ることができる。

なお、コースの履修認定は「がんプロコース」責任者により行う。

○ 履修方法

- 1) 修士課程は、修士課程修了要件34単位のうち、本コース共通科目の全て（8単位）および、専門科目のうち薬学（4単位）を履修して単位を修得し、1回以上英語で学会発表を行う必要がある。（他は総合薬品科学専攻の修了要件を満たすものとする。）
- 2) 4年博士課程は、博士課程修了要件の30単位のうち、本コース共通科目の全て（8単位）および、専門科目のうち薬学（4単位）と緩和医療学（4単位）を履修して単位を修得し、がんに関わる英文論文1報以上が受理される必要がある。（他は先端医学薬学専攻の修了要件を満たすものとする。）
- 3) 後期3年博士課程は、博士課程修了要件の18単位のうち、本コース共通科目の全て（8単位）および、専門科目のうち薬学（4単位）を履修して単位を修得し、がんに関わる英文論文1報以上が受理される必要がある。（他は先端創薬科学専攻の修了要件を満たすものとする。）ただし上記12単位を修士課程で履修して単位を修得した学生は、博士課程において重複して受講することはできない。
- 4) これら12～16単位は全てeラーニングにて履修し、8大学共通の試験・レポートにより評価する。
- 5) 専門科目の腫瘍薬学は、その全ての講義（コマ）を受講する必要がある。

- 6) 同一コマに対して8大学により複数の講義が提供されている場合は、そのうちひとつを選択して受講する。同一コマを二つ以上受講することも可能であるが、重複してコマ数にはカウントされない。
- 7) 「がんプロコース」履修者についても、修了（学位取得）のためには、一般の修士、博士課程学生と同様の修了要件を満たす必要がある。ただし、「がんプロコース」科目を修士課程科目、博士課程科目に含めることができる。
- 8) 「がんプロコース」履修者以外の学生についても、一科目単位で「がんプロコース」科目を履修することができる。その場合も、修士課程科目、博士課程科目に含めることができる。
- 9) 本コースの全ての講義は、全ての大学院生（医学、薬学、看護学）が聴講可能であるが、登録が必要であり、e-ラーニングシステム利用のための個人ID、パスワードを各自で管理する責任を負う。

開設授業科目並びに指導教員

(別表1)

4年博士課程 先端医学薬学専攻 (医学領域)・先進予防医学共同専攻

備考 ※印の指導教員は平成29年4月1日以降変更予定

開設授業科目名	指導教員					
遺伝子生化学	教授	瀧口正樹	准教授	日和佐隆樹	講師	岩瀬克郎
認知行動生理学	教授	清水栄司	講師	松澤大輔	助教	須藤千尋
神経生物学	准教授	山口 淳				
精神医学	教授	伊豫雅臣	講師	椎名明大	助教	石川雅智
	助教	小松英樹	助教	新津富央	助教	木村敦史
	助教	佐々木剛	助教	細田 豊		
眼科学	教授	山本修一	講師	忍足俊幸	講師	馬場隆之
	講師	佐藤栄寿	助教	北橋正康	助教	白戸 勝
	助教	中村洋介	助教	辰巳智章	助教	横内裕敬
	助教	太和田彩子	助教	窪田真理子		
神経内科学	教授	桑原 聡	客員教授	村田美穂	客員教授	山村 隆
	准教授	森 雅裕	講師	平野成樹	講師	三澤園子
	助教	山本達也	助教	鵜澤顕之	助教	関口 縁
	助教	澁谷和幹				
精神行動発達障害学	客員教授	稲垣真澄				
脳神経外科学	教授	岩立康男	講師	村井尚之	講師	小林英一
	助教	樋口佳則	助教	松谷智郎	助教	堀口健太郎
	助教	石渡規生	助教	足立明彦		
整形外科	准教授	大鳥精司	准教授	村田 淳	(フロンティア)教授 鈴木昌彦	
	講師	國吉一樹	講師	落合信靖	助教	山口智志
	助教	古矢丈雄	助教	中村順一	助教	松浦佑介
	助教	浅野由美	助教	鈴木崇根	助教	折田純久
	助教	赤木龍一郎	助教	稲毛一秀		
薬理学	教授	安西尚彦	准教授	松本明郎	助教	降幡知巳
診断病理学	教授	中谷行雄	准教授	太田 聡		
呼吸器内科学	教授	巽浩一郎	寄附講座教員(客員教授)		田邊信宏	
	准教授	猪狩英俊	講師	坂尾誠一郎	講師	多田裕司
	講師	津島健司	助教	寺田二郎	助教	伊狩 潤
	助教	杉浦寿彦				
循環器内科学	教授	小林欣夫	准教授	永井敏雄	講師	長谷川洋
	講師	船橋伸禎	講師	藤本善英	助教	宮内秀行
	助教	中山 崇	助教	上田希彦	助教	舘野 馨
	助教	高岡浩之				
呼吸器病態外科学	教授	吉野一郎	講師	岩田剛和	講師	中島崇裕
	助教	鈴木秀海	助教	藤原大樹	助教	和田啓伸
	助教	坂入祐一				
心臓血管外科学	教授	松宮護郎	講師	上田秀樹	助教	黄野皓木
	助教	渡邊倫子	助教	松浦 馨	助教	田村友作
麻酔科学	教授	磯野史朗	准教授	田口奈津子	准教授	石川輝彦
	助教	鐘野弘洋	助教	岡崎純子	助教	八代英子
	助教	小見田真理	助教	北村祐司	助教	佐藤 晋
	助教	加藤辰一郎				
病態病理学	准教授	岸本 充	助教	富居一範		
消化器・腎臓内科学	講師	露口利夫	講師	神田達郎	講師	丸山紀史
	講師	井関 徹	講師	新井誠人	講師	千葉哲博
	助教	安井 伸	助教	三方林太郎	助教	松村倫明
	助教	濱野有紀	助教	大岡美彦	助教	中川倫夫
	助教	鈴木英一郎	助教	三村尚也	助教	李 記璋

開設授業科目名	指導教員					
臓器制御外科学	教授 講師 助教 助教 助教	大塚将之 吉富秀幸 高屋敷史 高野重紹 賀川真吾	准教授 講師 助教 助教 助教	清水宏明 古川勝規 三階貴史 鈴木大亮 野島広之	准教授 助教 助教 助教 助教	長嶋 健 榊原雅裕 久保木知 酒井 望
先端応用外科学	教授 准教授 講師 助教 助教 助教 助教	松原久裕 宮内英聡 大平 学 羽成直行 角田慎輔 今西俊介	(フロンティア)教授 講師 助教 助教 助教 助教	林 秀樹 阿久津泰典 加野将之 成島一夫 武藤頼彦	講師 助教 助教 助教 助教 助教	上里昌也 村上健太郎 早野康一 斎藤洋茂
病原細菌制御学	*教授	野田公俊	准教授	清水 健	准教授	八尋錦之助
分子ウイルス学	教授	白澤 浩	助教	中本晋吾		
感染生体防御学	准教授	野呂瀬一美				
生殖生物学	講師	伊藤千鶴				
生殖医学	教授 講師 助教 助教	生水真紀夫 碓井宏和 石川博士 井上万里子	准教授 講師 助教 助教	長田久夫 田中宏一 尾本暁子 中田恵美里	准教授 助教 助教 助教	三橋 暁 楯 真一 錦見恭子
泌尿器科学	教授 講師 助教	市川智彦 川村幸治 仲村和芳	准教授 助教 助教	小宮 顕 坂本信一 佐塚智和	講師 助教 助教	今本 敬 今村有佑 布施美樹
分子病態解析学	教授 助教	田中知明 別府美奈子	准教授	松下一之	講師	西村 基
救急集中治療医学	教授 講師 助教	織田成人 中田孝明 立石順久	准教授 助教	渡邊栄三 服部憲幸	講師 助教	安部隆三 大島 拓
皮膚科学	教授 助教	松江弘之 末廣敬祐	助教	外川八英	助教	松岡悠美
小児外科学	教授 助教	吉田英生 中田光政	准教授 助教	齋藤 武 光永哲也	講師 助教	照井慶太 小松秀吾
形成外科学	准教授	三川信之	講師	窪田吉孝		
法医学	教授 助教	岩瀬博太郎 本村あゆみ	准教授	齋藤久子	講師	猪口 剛
和漢診療学	准教授	並木隆雄				
腫瘍病理学	教授	池原 譲	准教授	北川元生		
免疫細胞医学	教授	本橋新一郎	准教授	木村元子	助教	高見真理子
遺伝子情報学	准教授	関 直彦	助教	菅波晃子		
口腔科学	教授 講師 助教	丹沢秀樹 坂本洋右 中嶋 大	准教授 講師 助教	鶴澤一弘 笠松厚志 大和地正信	准教授 助教 助教	椎葉正史 肥後盛洋
耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学	教授 助教 助教 助教	岡本美孝 茶蘭英明 山崎一樹	准教授 助教 助教 助教	花澤豊行 國井直樹 鈴木猛司	講師 助教 助教 助教	櫻井大樹 米倉修二 堅田浩司
画像診断放射線腫瘍学	教授 助教	宇野 隆 原田倫太郎	講師 助教	渡辺未歩 堀越琢郎	助教 助教	小林裕樹 滝嶋葉月
放射線治療学	客員教授	鎌田 正	客員教授	山田 滋		
先端化学療法学	教授 講師	瀧口裕一 岩澤俊一郎	准教授	田口奈津子	准教授	椎葉正史
代謝生理学	教授	三木隆司	助教	李 恩瑛		
疾患生命医学	教授 (バイオ) 准教授	幡野雅彦 坂本明美	准教授 (バイオ) 助教	粕谷善俊 谷口俊文 藤村理紗	助教	
発生再生医学	教授	斎藤哲一郎	助教	馬場 敦		

開 設 授 業 科 目 名	指 導 教 員					
アレルギー・臨床免疫学	教 授 中島裕史 助 教 高取宏昌 助 教 横田雅也	准教授 廣瀬晃一 助 教 池田 啓	講 師 鈴木浩太郎 助 教 玉地智宏			
粘膜免疫学	教 授 植松 智	講 師 武村直紀				
免疫発生学	教 授 中山俊憲	准教授 平原 潔	准教授 小野寺淳			
分子腫瘍学	教 授 金田篤志 助 教 松坂恵介	講 師 喜多和子	助 教 菅谷 茂			
細胞分子医学	教 授 岩間厚志					
細胞治療内科学	教 授 横手幸太郎	准教授 中世古知昭	准教授 竹本 稔			
	助 教 堺田恵美子	助 教 武内正博	助 教 竹田勇輔			
	助 教 大和田千桂子	助 教 石川 耕	助 教 前澤善朗			
	助 教 小出尚史	助 教 鈴木佐和子	助 教 横尾英孝			
	寄附講座教員（特任准教授）清水孝彦		寄附講座教員（特任助教）越坂理也			
寄附講座教員（特任助教）永野秀和						
小児病態学	教 授 下条直樹	准教授 石和田稔彦	講 師 藤井克則			
	講 師 菱木はるか	助 教 江畑亮太	助 教 塩濱 直			
	助 教 日野もえ子	助 教 高谷具純	助 教 山出史也			
	助 教 遠藤真美子					
医療教育学	准教授 朝比奈真由美	講 師 伊藤彰一				
内視鏡診断治療学	助 教 杉山晴俊					
臨床推論学	教 授 生坂政臣	講 師 大平善之				
グローバル臨床試験学	教 授 花岡英紀	准教授 菅原岳史	准教授 佐藤泰憲			
医療情報学	准教授 鈴木隆弘	准教授 井出博生	助 教 土井俊祐			
分子腫瘍生物学	客員教授 田川雅敏	客員教授 永瀬浩喜	客員准教授 尾崎俊文			
免疫制御学	客員教授 古関明彦	客員教授 大野博司	客員教授 谷内一郎			
	客員准教授 石井保之	客員准教授 石川文彦	客員准教授 藤井眞一郎			
医療行政学	客員教授 櫻井信豪	客員教授 宇山佳明				
神経科学	（社会精神）教 授 橋本謙二					
司法心理学	[未定]					
司法精神保健学	（社会精神）教 授 五十嵐禎人					
応用精神医療学	（社会精神）特任教授 渡邊博幸					
病原機能学	（真菌）准教授 知花博治					
感染免疫学	（真菌）教 授 米山光俊	（真菌）准教授 西城 忍				
	（真菌）准教授 後藤義幸	（真菌）助 教 尾野本浩司				
	（真菌）助 教 矢部力朗					
臨床感染症学	（真菌）教 授 亀井克彦	（真菌）准教授 渡辺 哲				
微生物資源学	*（真菌）教 授 五ノ井透	（真菌）准教授 矢口貴志				
	（真菌）准教授 高橋弘喜	（真菌）助 教 田中玲子				
	（真菌）助 教 大荒田素子					
環境健康学	教 授 森 千里	（フロンティア）准教授 川平 洋				
	（予防医学）助 教 江口哲史					
グローバル次世代予防医学	（予防医学）教 授 戸高恵美子	（予防医学）助 教 中岡宏子				
健康都市・空間デザイン学	（予防医学）准教授 花里真道					
公衆衛生学	教 授 羽田 明	准教授 尾内善広	助 教 藤田美鈴			
環境労働衛生学	教 授 諏訪園靖	助 教 能川和浩				
社会予防医学	（予防医学）教 授 近藤克則					
臨床疫学	（予防医学）教 授 藤田伸輔					
オミックス解析応用学	（予防医学）教 授 関根章博					
運動器疼痛疾患学	（予防医学）教 授 佐粧孝久					
栄養代謝学	（予防医学）准教授 櫻井健一					
分子疾患生物学	教 授 眞鍋一郎					

（バイオ）は「バイオメディカル研究センター」の所属を示します。
（社会精神）は「社会精神保健教育研究センター」の所属を示します。
（真菌）は「真菌医学研究センター」の所属を示します。
（予防医学）は「予防医学センター」の所属を示します。
（フロンティア）は「フロンティア医工学センター」の所属を示します。

4 年博士課程 先端医学薬学専攻（薬学領域）

※印の指導教員は平成29年4月1日以降変更予定

開 設 授 業 科 目 名	指 導 教 員					
分子細胞生物学	教 授	山口直人	講 師	福本泰典	助 教	山口憲孝
生化学	教 授	伊藤素行	助 教	溝口貴正	助 教	殿城亜矢子
環境毒性学	*客員教授	平野靖史郎	客員教授	青木康展	客員准教授	小林弥生
薬効薬理学	教 授	村山俊彦	准教授	中村浩之		
薬物学	教 授	秋田英万	准教授	小林カオル		
生物薬剤学／臨床薬理学	教 授	伊藤晃成	教 授	樋坂章博	講 師	関根秀一
	助 教	青木重樹	助 教	佐藤洋美	助 教	畠山浩人
社会薬学・実務薬学	教 授	佐藤信範	教 授	関根祐子	准教授	小林江梨子
	助 教	櫻田大也	助 教	大久保正人	特任助教	稲川知子
医療薬学・分子心血管薬理学	教 授	石井伊都子	教 授	高野博之	助 教	藤吉正哉
	特任助教	橋本直子				

後期3年博士課程（先端創薬科学専攻）

開 設 授 業 科 目 名	指 導 教 員				
薬化学	教 授	根本哲宏	助 教	原田慎吾	
薬品合成化学	教 授	西田篤司	准教授	荒井 秀	助 教 原田真至
生体機能性分子学	教 授	高山廣光	准教授	北島満里子	助 教 小暮紀行
活性構造化学	教 授	石橋正己	准教授	荒井 緑	助 教 石川直樹
製剤工学	教 授	森部久仁一	講 師	東頭二郎	助 教 植田圭祐
薬品物理化学	教 授	根矢三郎	准教授	星野忠次	助 教 米田友貴
遺伝子資源応用	教 授	齊藤和季	准教授	山崎真巳	助 教 吉本尚子
遺伝子創薬学	客員教授	中山 学	客員教授	鈴木秀幸	客員准教授 大関淳一郎
微生物薬品化学	教 授	川島博人	准教授	高屋明子	助 教 平川城太郎
病態分析化学	教 授	戸井田敏彦	准教授	西村和洋	助 教 東 恭平
分子画像薬品学	教 授	荒野 泰	准教授	上原知也	助 教 鈴木博元
予防薬学	教 授	小椋康光	准教授	鈴木紀行	

開設授業科目名	指導教員				
創薬生命科学基礎概論Ⅰ・Ⅱ	教授 西田篤司	教授 山口直人	他		
国際創薬科学Ⅰ・Ⅱ （英語化授業）	教授 戸井田敏彦	特任教授 Ashfaq Mahmood	特任助教 Amit Rai		
医薬品開発学	教授 佐藤信範	准教授 小林江梨子	助教 櫻田大也		

医学薬学府指導教授別研究テーマ

(別表2)

4年博士課程（先端医学薬学専攻・医学領域）

備考 ※印の指導教員は平成29年4月1日以降変更予定

指導教授 (研究領域)	研究テーマ
瀧口 正樹 (遺伝子生化学)	1. 行動, 代謝, 神経可塑性の日周リズムの形成および制御機構 2. 動脈硬化, 脳梗塞, 癌, 自己免疫疾患等の抗体マーカーの探索とその抗原タンパク質の機能解析 3. 血管新生を制御する化合物の探索と開発
清水 栄司 (認知行動生理学)	こころと脳が, 情報化社会で適切に機能するために, バランスのよい認知と行動と感情と注意の連動に関するメンタルヘルスをマクロからミクロまで (社会, 人間, 動物, 分子の各レベルで) 幅広い観点から研究する 1. 不安・うつ・摂食・疼痛・発達などの精神疾患に対する認知行動療法の効果を高めるための臨床研究 (ランダム化比較試験などの効果検証研究) 2. 医療・職域・教育現場における, 認知行動療法と ICT (情報テクノロジー) を活用した心の健康づくりの研究 3. 人を対象とした MRI などの脳画像研究, tDCS などの脳刺激による電気生理学的研究, 脳機能促進のための神経心理学的研究 4. 動物の行動モデルを用いた, 記憶・学習のような知性, 不安・恐怖のような情動, 意欲や動機づけなどの知・情・意に関する分子メカニズムの研究 5. 恐怖消去機構の解明および「恐怖を忘れやすくさせる」治療薬の開発
(未定) 担当教員: 山口 淳 (准教授) (神経生物学)	1. 脳梗塞急性期の神経細胞ストレス応答機構の解明 2. 脳梗塞慢性期の神経再生療法の開発 3. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の発症機序の解明
伊豫 雅臣 (精神医学)	1. 臨床精神薬理学 2. 精神疾患の病態解明とバイオマーカー開発 3. 精神障害の治療法開発 4. 認知行動学 5. 司法精神保健
山本 修一 (眼科学)	1. 視覚情報処理機構の臨床並びに基礎的研究 2. 視覚異常の電気生理学的解析 3. 遺伝性眼疾患の分子生物学的研究 4. 網膜・硝子体疾患の病態に関する研究 5. 網膜移植 6. 視神経の再生, 移植 7. 緑内障の病態生理と薬物治療 8. 網脈絡脈変性症の基礎的・臨床的研究 9. ブドウ膜炎の免疫学的研究
桑原 聡 (神経内科学)	1. 神経軸索イオンチャンネル生理学 2. 免疫性神経疾患の病態機序 3. 軸索伸展促進因子による末梢神経再生 4. 脳機能画像・分子イメージング 5. 神経疾患の分子遺伝学 6. 運動ニューロン疾患の新規治療開発 7. 神経原性慢性疼痛の病態機序と新規治療
山村 隆 (神経内科学)	1. 多発性硬化症の病態解析 2. 多発性硬化症の新規治療薬開発 3. 多発性硬化症の病態マーカーの開発 4. 免疫性神経疾患の誘導に関わる環境因子の解析 5. 神経系と免疫系のクロストーク 6. 視神経脊髄炎 (NMO) の病態解析と治療

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
村田 美穂 (神経内科学)	1. 新規抗パーキンソン病薬ゾニサミドの神経保護作用に関する研究 2. パーキンソン症候群における薬物動態解析とその臨床応用に関する研究 3. 脊髄小脳変性症等神経変性疾患の病態解明と治療法開発に関する研究 4. 臨床神経学
稲垣 真澄 (精神行動発達障害学)	1. 広汎性発達障害の病態解明に関する臨床研究 2. 学習障害に関する神経科学的研究 3. AD / HDの病態と治療法開発に関する研究 4. 発達障害児の保護者のメンタルヘルスに関する研究 5. 小児副腎白質ジストロフィー症 (ALD) に関する生理学的研究 6. 発達障害児の行動異常モデルにおける基盤研究
岩立 康男 (脳神経外科学)	1. 間脳下垂体部疾患の診断・治療の研究 2. 頭蓋底腫瘍の外科治療の研究 3. 顔面麻痺・三叉神経痛の外科治療の研究 4. てんかんの外科治療の研究 5. 脊髄脊椎疾患・脊髄空洞症の診断と治療の研究 6. 脊髄脊椎疾患の遺伝子診断の研究 7. 悪性脳腫瘍の診断と治療の研究 8. 脳腫瘍の遺伝子診断と治療の研究 9. 脳脊髄液循環異常の診断と治療の研究 10. 神経内視鏡による治療法の研究 11. 閉塞性脳血管疾患の血管内外科治療の研究 12. 脳動脈瘤の血管内治療の研究 13. 神経再生の研究
(未 定) 担当教員：大鳥 精司 (准教授) (整形外科学)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. 頰椎症性脊髄症の病態解明 2. 腰痛の発生メカニズムに関する研究 3. 変形性膝関節症の病態解明 4. 変形性股関節症の病態解明 5. スポーツ医学 6. 整形外科疾患のMRI診断 7. 外傷・傷害の病態および治療に関する研究 8. 運動器バイオメカニクス 9. 上肢・手の外科疾患の病態解明 10. 足部・足関節疾患の病態解明
鈴木 昌彦 (整形外科学)	1. 運動器症候群の病態解明 2. 運動器症候群の新規治療方法の開発 3. 生体質感造型モデルの開発 4. 承認審査にむけた医療機器開発方法に関する研究
安西 尚彦 (薬理学)	1. 新規トランスポーターの分子同定・機能解析によるトランスポーター分子標的治療薬の開発 2. トランスポーター機能制御の分子機構解明と「トランスポートソーム」修飾治療法の開発 3. 腫瘍特異的アミノ酸トランスポーターを分子標的とする新規抗がん薬開発 4. 腎尿細管尿酸トランスポーターを分子標的とする新規高尿酸血症治療薬開発 5. 個別化医療推進を支える薬物トランスポーター遺伝子多型と輸送活性変動の関連性解明 6. トランスポーターに輸送される生体内生理活性物質の非侵襲リアルタイム体外計測技術の開発 7. 一酸化窒素 (NO) によるタンパク質翻訳後修飾 (S-nitrosylation) とシグナル伝達制御 8. NOによる細胞間情報伝達機構の解明 9. パッチクランプ法を用いたイオンチャネル機能解析
中谷 行雄 (診断病理学)	1. 悪性腫瘍の病理組織学的及び分子生物学的解析 2. 肺・胸膜疾患の病理組織学的及び分子生物学的解析 3. 縦隔腫瘍の病理組織学的及び分子生物学的解析 4. 外科病理診断学的研究 5. 細胞診断学的研究

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
巽 浩一郎 (呼吸器内科学)	1. 肺高血圧症の病態解析と治療戦略に関する研究 2. 肺血栓塞栓症の病態解析と治療戦略に関する研究 3. 慢性閉塞性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 4. 間質性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 5. 睡眠時無呼吸症候群の病態解析と治療戦略に関する研究 6. 胸部悪性腫瘍（特に肺癌，胸膜中皮腫）の病態解析と治療戦略に関する研究 7. 呼吸器感染症（真菌感染症，抗酸菌感染症を含む）の病態解析と治療戦略に関する研究 8. 呼吸器の再生医学に関する研究 9. 薬剤性肺障害を含む呼吸器疾患におけるバイオマーカー研究 10. アレルギー性肺疾患の病態解析と治療戦略に関する研究 11. 呼吸器疾患の和漢治療に関する研究
田邊 信宏 (呼吸器内科学)	1. 肺高血圧症の遺伝子的素因および遺伝薬理学の応用に関する研究 2. 肺高血圧症の運動制限因子およびリハビリに関する研究 3. 肺血管病変の定量的評価に関する研究 4. 慢性血栓塞栓性肺高血圧症実験モデル作成に関する研究 5. 肺高血圧症のバイオマーカーに関する研究
小林 欣夫 (循環器内科学)	1. 心臓血管疾患の再生治療・遺伝子治療 2. 遺伝子改変マウスを用いた心不全の発症機構 3. 心臓の発生・分化機構 4. 血管の新生と老化 5. 循環器疾患の画像診断 6. 虚血性疾患，不整脈に対するインターベンション
吉野 一郎 (呼吸器病態外科学)	1. 胸部悪性腫瘍（肺癌，気管腫瘍，胸壁腫瘍，縦隔腫瘍，胸膜中皮腫）の診断，外科治療，合併療法 2. 肺がんおよび肺癌の進展に関わる遺伝子発現の網羅的解析と遺伝子治療への応用 3. 肺癌に対する免疫療法（NKT療法）の基礎および臨床 4. 外科創傷過程における組織再生機序の解析と臨床応用 5. 新規胸部診断法の開発（次世代気管支鏡，仮想3次元画像を応用した胸腔鏡） 6. 肺再生に関する基礎研究 7. 臨床肺移植の最適化に関する研究 8. 移植肺に対する免疫寛容の誘導
松宮 護郎 (心臓血管外科学)	1. 虚血性心疾患に対する外科的治療 2. 心臓弁膜症に対する外科的治療 3. 大血管および末梢血管疾患に対する外科治療 4. 心不全に対する外科的治療法の開発 5. 心筋虚血再還流障害の制御 6. 心臓移植における急性，慢性拒絶反応の制御 7. 心臓血管疾患の再生治療 8. 人工心臓を用いた循環制御 9. 肺血栓塞栓症に対する外科治療
磯野 史朗 (麻酔科学)	1. 麻酔時，睡眠時の呼吸調節・上気道機能 2. 上気道閉塞のメカニズム 3. 睡眠時無呼吸の病態生理と周術期管理 4. 周術期気道管理・呼吸管理 5. 呼吸と痛みの相互作用 6. 周術期の睡眠 7. 緩和ケア患者に於ける睡眠 8. 周術期循環管理 9. 周術期体液管理 10. 周術期血液凝固能
(未 定) 担当教員：岸本 充 (准教授) (病態病理学)	1. 癌の分化転換の分子機構 2. AFP産生腺癌の分子生物学的解析 3. 消化器外科病理

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
(未 定) 担当教員：露口 利夫	〔未定〕（以下は前任の指導教員の場合である。） 1. 肝炎ウイルスの分子生物学的特質と肝炎病態・その治療 2. 劇症肝炎の病態と治療 3. 自己免疫性疾患と消化器 4. 癌関連遺伝子の分子生物学と発癌メカニズム 5. 肝癌・消化器癌の早期診断と先進的局所治療 6. 進行消化器癌の化学療法・遺伝子治療・免疫療法 7. 癌の薬剤耐性ならびに感受性に関する研究 8. 消化器を中心とした腹部画像診断 9. 重粒子線を応用した集学的がん治療 10. 門脈圧亢進症の病態と治療 11. 腎障害の発症メカニズムと治療 12. 消化管疾患（小腸疾患を含む）の内視鏡的診断及び治療 13. 炎症性腸疾患の成因，診断，治療
大塚 将之 (臓器制御外科学)	1. 消化器外科学 ① 肝胆膵の悪性・良性腫瘍の診断・治療に関する研究 ② 肝胆膵外科切除後の病態解明に関する研究 ③ 肝胆膵疾患の発生・進展に関する研究 ④ 消化器癌の肝転移の発生機序に関する研究 ⑤ 十二指腸乳頭病変の病態に関する研究 ⑥ 肝胆膵臓器移植に関する研究 ⑦ 臓器再生に関する研究 ⑧ 異種移植に関する研究 2. 乳腺・甲状腺外科学 ① 乳腺・甲状腺疾患の診断・治療に関する研究 ② 乳腺・甲状腺外科切除後の病態についての研究 3. 外科侵襲学 ① 外科手術侵襲時の生体反応に関する研究 ② 生体防御からみた術前術後管理の研究 4. 外科腫瘍学 ① 固形腫瘍の増殖進展における細胞および分子機構の研究 ② 腫瘍細胞増殖と外科侵襲の Cytokine Network 機構の研究
松原 久裕 (先端応用外科学)	A. 消化器外科学 1. 消化器癌における腫瘍外科学・治療学；画像診断，細胞内分子の画像化，内視鏡診断，低侵襲治療，手術手技，内視鏡の治療，鏡視下手術，化学療法，放射線治療，重粒子線治療，免疫治療，遺伝子治療，分子治療，エピジェネティクス・細胞死の制御，細胞内分子移動制御，個別化治療，外科的侵襲の制御，栄養法，臓器再生 2. 消化管機能生理学；食道アカラシア，逆流性食道炎，胃排出能，腸粘膜，排便機能 3. 代謝異常に対する消化器外科学；高度肥満に対する外科治療学，脂質代謝・糖質代謝異常に対する外科治療学 B. 乳腺・甲状腺外科学 1. 乳癌における腫瘍外科学・治療学 2. 甲状腺癌における腫瘍外科学・治療学 C. 臓器移植学 1. 臓器保存法 2. 免疫寛容，拒絶反応制御
林 秀樹 (先端応用外科学)	1. 内視鏡外科治療学 2. センチネルリンパ節ナビゲーションに関する研究 3. 癌微小転移検索法の開発 4. エネルギーデバイスの組織侵襲に関する研究 5. 外科手術シミュレーション法の研究
*野田 公俊 (病原細菌制御学)	1. 病原分子の細胞内輸送システムと活性化のメカニズムに関する研究 2. 病原分子の脳細胞アポトーシスの誘導メカニズムに関する研究 3. ADP-リボシル化病原分子による情報伝達系攪乱のメカニズムに関する研究 4. 病原分子による組織障害のメカニズムに関する研究 5. 病原分子の活性制御剤の開発と臨床応用に関する研究 6. 病原分子の簡便なスクリーニング法の開発と臨床応用に関する研究

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
白澤 浩 (分子ウイルス学)	1. ウイルスの分子疫学 2. ウイルス遺伝子の転写調節機構 3. 腫瘍ウイルスと宿主遺伝子の相互作用 4. 発がん関連宿主遺伝子 5. ウイルスベクター
(未 定) 担当教員：野呂瀬 一美 (准教授) (感染生体防御学)	1. 寄生体の体内移行経路・臓器特異性・接着機序の解析 2. 感染症に対する生体防御の分子機構 3. 新興・再興感染症と熱帯医学 4. 寄生体のミトコンドリアに関する研究 5. 病原体の薬剤耐性獲得機構
(未 定) 担当教員：伊藤 千鶴 (講師) (生殖生物学)	1. 精子核周囲物質を指標としたほ乳動物の卵活性化能の評価法の開発 2. 受精関連分子のイメージング化による受精機構の解析 3. 遺伝子改変動物を用いた不妊症発症の研究 4. 精子中心体関連物質の受精および胚発生における機能解析 5. 精子鞭毛外側粗大線維と軸糸の相互作用の研究
生水 真紀夫 (生殖医学)	1. 絨毛細胞の機能分化・絨毛癌におけるエピジェネティック制御機構 2. 非侵襲的出生前遺伝子診断法の開発 3. 子宮頸癌・卵巣癌の早期診断マーカーと新規治療法の開発 4. 子宮体癌の内分泌療法・妊孕性温存療法 5. 難治性絨毛癌の化学療法の開発と転移機序の解明 6. 子宮筋腫・内膜症の原因に関する分子生物学的研究 7. エストロゲン合成酵素の活性機能相関 8. 脳性小児麻痺の発生予防法の開発
市川 智彦 (泌尿器科学)	1. 尿路結石の成因と再発防止の研究 2. 腎癌，尿路上皮癌の遺伝子診断の研究 3. 進行腎癌における腫瘍免疫の研究 4. 神経因性膀胱の研究 5. 前立腺癌における癌抑制遺伝子・転移抑制遺伝子の研究 6. 前立腺癌のアンドロゲン依存性喪失機構の研究 7. 進行前立腺癌に対する新規治療に関する研究 8. 男性不妊症・性機能障害の研究
田中 知明 (分子病態解析学)	1. 疾患プロテオミクス 2. 遺伝子診断と遺伝医療システムの構築 3. 肝疾患の新しいバイオマーカーの開発と実用化 4. アルコール医学生物学 5. 検査の診断効率に関する医療経済学的検討 6. スプライシング異常の病態解析 ―診断・治療への応用― 7. 非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の病態解析 8. 神経筋疾患の病態機序に関する遺伝学的検討 9. 質量分析技術の臨床検査への応用 10. 非侵襲的臨床検査法の開発
織田 成人 (救急集中治療医学)	1. 多臓器不全の病態生理と治療 2. 侵襲に対する生体反応に関与する遺伝子多型に関する研究 3. 各種重症病態に対する急性血液浄化を用いた治療 4. ショック・臓器障害の分子生物学的研究 5. 侵襲に続発する免疫不全に関する研究 6. 重症患者の代謝動態と栄養管理に関する研究 7. 劇症肝不全の病態と人工肝臓に関する研究 8. 経皮的心肺補助に関する研究 9. 肝再生，神経再生に関する研究 10. 蘇生後脳症の分子生物学的，電気生理学的研究

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
松江 弘之 (皮膚科学)	1. 毛包由来3次元表皮を用いた皮膚疾患の遺伝学的解析 2. 毛包由来3次元表皮を用いた代替検査法の開発 3. 皮膚炎症性疾患の病態の解析 4. 皮膚感染症(細菌・真菌)の病態の解析 5. 皮膚悪性腫瘍の病態の解析 6. 皮膚悪性腫瘍の新規バイオマーカーの探索研究
吉田 英生 (小児外科学)	1. 小児悪性腫瘍の早期診断と集学的治療法の研究 2. 小児消化管疾患の病態生理と治療法の研究 3. 小児胆道疾患の病態・診断・治療の研究 4. 小児在宅医療の臨床的研究 5. 肝移植, 小腸移植の臨床的基礎的研究 6. 腸管免疫の臨床的基礎的研究 7. 小児鏡視下手術の臨床的研究 8. 小児悪性腫瘍の遺伝子診断, 遺伝子治療の研究 9. 再生医療の基礎的研究
(未 定) 担当教員: 三川 信之 (准教授) (形成外科学)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. 皮弁の血行動態に関する研究 2. 頭蓋顎顔面外科における骨延長術と延長器の研究 3. 頭蓋縫合早期癒合症の外科治療に関する研究 4. 顔面先天異常発生の研究 5. 顔面の人種的形態学研究 6. 口唇口蓋裂による鼻変形の形態的研究 7. 各領域における癌摘出後の機能再建外科学 8. 頭蓋顔面変形に対するシュミレーション外科に関する研究 9. 創傷治癒と組織培養に関する研究 10. 血管腫瘍および血管奇形の治療に関する研究 11. 脂肪幹細胞を用いた再生医療の研究
岩瀬 博太郎 (法医学)	1. 画像診断の法医学への応用 2. 外傷の法医病理学的研究 3. 血液, 組織の各種遺伝標識の法医学的応用 4. 活性酸素と細胞死の関わりに関する研究 5. 身元確定における人体寄生生物のDNA型の応用
(未 定) 担当教員: 並木 隆雄 (准教授) (和漢診療学)	1. 漢方医学での診断の標準化 2. 漢方方剤の薬理と創薬研究 3. 東西医学融和の治療学 4. 漢方治療の薬剤経済学的解析
(未 定) 担当教員: 朝比奈 真由美 (准教授) (医療教育学 医学教育 研究室) 伊藤 彰一 (講師) (医療教育学)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. 医療専門職の卒前臨床教育におけるプログラム開発と実践 2. 医療専門職の卒後研修におけるプログラム開発と実践 3. 医療専門職の生涯教育におけるプログラム開発と実践 4. 市民を対象とした健康生涯教育のプログラム開発と実践 5. 社会ニーズにマッチした教育手法と評価法の調査, 研究 6. 医療者に対する教育能力開発と実践
生坂 政臣 (診断推論学)	1. 診断プロセスの解明およびその効果的教育方略の研究 2. 病歴情報および身体所見の操作特性の研究 3. 疾患想起ストラテジーの研究 4. 患者の受療行動の心理学的検討 5. 循環型地域医療連携システム学の研究

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
(未 定) 担当教員：鈴木 隆弘 (准教授) (医療情報学)	〔未定〕（以下は前任の指導教員の場合である。） 1. 電子カルテシステムの構築 2. 医療情報の共有による地域連携 3. インターネット診療システムの開発 4. 巨大医療データベースの構築 5. 電子カルテへのテキストマイニングの応用 6. 診療支援システムの開発 7. 医療情報の医療経営への応用
池原 譲 (腫瘍病理学)	1. 近赤外波長域（1,000-1,800nm）イメージング技術の開発と、これを利用した画像診断学の創成 2. がんの浸潤転移に関わる分子の発現・機能制御メカニズムの解析と、これを標的とする診断治療薬の探索研究 3. 初期発生に関わる分子群の細胞分化・増殖・発がんにおける機能の分子生物学的解析 4. 遺伝子改変技術を用いた膵管がんを発症するマウスの作成と、これを用いた発がんメカニズムの解明 5. モデルマウスを利用した検査診断ならびに、治療アプローチの開発研究 6. 解剖病理・外科病理
本橋 新一郎 (免疫細胞医学)	1. NKT細胞の抗腫瘍効果に関する分子メカニズム解析 2. がん免疫細胞治療の臨床研究 3. がん免疫細胞治療に関するバイオマーカー探索 4. 治療用免疫細胞の細胞規格研究
担当教員：関 直彦 (准教授) (機能ゲノム学)	1. 癌・ゲノム解析研究 2. 機能性RNA解析に基づく癌遺伝子・癌制御遺伝子の探索 3. マイクロRNAが制御する癌・分子ネットワークの探索
丹沢 秀樹 (口腔科学)	1. 歯骨増生・吸収の研究 2. 組織再生に関する研究 3. 口腔耐性菌の研究 4. 口腔癌術後の再建に関する研究 5. 口腔癌の遺伝子的研究 6. 口腔癌の治療法の研究
岡本 美孝 (耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学)	1. 鼻アレルギーの発症機序と治療に関する研究 2. 頭頸部癌に関する臨床的並びに基礎的研究 3. 発声機構の形態学的・生理学的研究 4. 耳鼻咽喉科疾患の遺伝子学的研究 5. 頭頸部臓器組織の微小循環に関する研究 6. 鼻粘膜の生理及び病態生理に関する研究 7. 嗅覚・味覚生理に関する研究 8. 頭頸部癌に対する機能再建外科に関する研究 9. 唾液腺疾患の診断と治療に関する研究
宇野 隆 (画像診断・放射線腫瘍学)	1. 画像診断による臓器機能・代謝評価に関する研究 2. 分子標的画像による腫瘍動態評価に関する研究 3. PETによる臓器機能・代謝評価に関する研究 4. MRIを用いた中枢神経機能評価に関する研究 5. 高精度放射線治療による抗腫瘍効果に関する研究 6. 低侵襲放射線治療技術の開発に関する臨床研究 7. 分子追跡放射線治療技術の開発に関する基礎研究 8. 放射線の生物学的作用機序に関する基礎研究
鎌田 正 (放射線治療学)	1. 炭素線の作用機序に関する研究 2. 炭素線治療技術向上に関する研究 3. 炭素線効果の定量的評価と向上に関する研究 4. 炭素線感受性予測システムに関する研究 5. がんの遺伝子変異と炭素線治療効果に関する研究 6. 免疫・炭素線併用療法の開発研究 7. 画像診断による炭素線治療効果評価に関する研究 8. 炭素線による正常組織障害の治療・防護に関する研究 9. 炭素線治療の適応ならびに費用対効果に関する研究

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
山田 滋 (放射線治療学)	1. 炭素線の生物学的作用機序に関する研究 2. 炭素線治療技術向上に関する研究 3. 炭素線の適応拡大および治療効果向上に関する研究 4. 炭素線の分子標的治療薬・免疫療法等の併用療法の開発研究 5. がんの分子生物学的解析と炭素線治療効果に関する研究 6. 炭素線による正常組織障害の治療と防護に関する研究 7. ポジトロンCTによる炭素線治療効果判定および予測に関する研究 8. MRIによる炭素線治療効果判定および予測に関する研究
瀧口 裕一 (臨床腫瘍学) (先端化学療法学)	1. がんの転移・浸潤機序 2. がん治療の耐性機序と克服 3. がんのバイオマーカー 4. がん化学療法・集学的治療の臨床研究・臨床試験 5. 臓器横断的がん治療専門医の効率的な教育プログラム開発
三木 隆司 (代謝生理学)	1. 糖・エネルギー代謝の制御機構 2. 分泌現象の分子メカニズム 3. 遺伝子改変動物を用いたインスリン分泌と作用の病態解析 4. 電気的興奮細胞の活動調節 5. 脳と末梢組織間の代謝シグナルクロストーク 6. 糖尿病・メタボリック症候群の分子病態解明 7. 糖尿病の新規治療標的分子の探索と創薬
斎藤 哲一郎 (発生再生医学)	1. 神経系発生の分子機構の解析 2. 神経幹細胞の分化能の解析と制御 3. 神経細胞の個性獲得機構の解析 4. 神経回路網の構築と高次神経機能への役割の解析
中島 裕史 (アレルギー・臨床免疫学)	1. Tリンパ球の分化・活性化機構の解明とその抑制による疾病制御 2. サイトカイン産生機構の解明 3. アレルギー性炎症の誘導機構の解明 4. アレルギー疾患における自然免疫細胞の役割の解析 5. 気管支喘息をはじめとするアレルギー疾患の難治化機構の解析 6. アレルギー疾患の新規免疫療法の開発 7. 膠原病における臓器障害機構の解明 8. リウマチ性疾患の関節病変の画像診断 9. 自己免疫疾患のバイオマーカーの網羅的解析 10. 自己免疫疾患の治療反応性予測に関する研究
植松 智 (粘膜免疫学)	1. 腸管の感染、炎症状態における自然免疫の役割 2. 腸管粘膜固有層の自然免疫細胞群の解析 3. 粘膜免疫防御を付加出来る新規ワクチン、アジュバント開発 4. 腸管免疫におけるシステムバイオリロジー解析 5. ゲノム編集技術を用いたマウス作成と新規免疫療法の開発
中山 俊憲 (免疫発生学)	1. 免疫システムの形成と維持の生物学 2. ヘルパーT細胞の機能分化の転写調節、クロマチンリモデリング 3. メモリーT細胞の形成・機能維持の分子機構 4. 病原性メモリーT細胞の解析 5. 難治性炎症病態の解析と制御 6. アレルギー疾患（喘息、花粉症）発症のメカニズム解明と治療法の開発研究
金田 篤志 (分子腫瘍学)	1. 発癌のエピジェネティクス 2. エピゲノム異常の分子機構 3. 細胞分化・老化におけるエピゲノムとその制御機構の研究 4. ストレス応答機構の解析 5. 環境毒性物質の生物作用
岩間 厚志 (細胞分子医学)	1. 正常およびがん幹細胞システムの成り立ちとその分子基盤の解明 2. 幹細胞研究の再生医療・がん治療へのトランスレーション 3. 造血・肝などの組織幹細胞の自己複製機構の解明 4. エピゲノム修飾による転写制御とエピジェネティクス

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
幡野 雅彦 (疾患生命医学)	1. 発生工学技術を用いた疾患モデルマウスの作製と解析 2. 腸管神経分化の分子機構とその異常による疾患病態解析 3. 腸管神経系と免疫系の相互作用解析 4. 肺胞形成の分子機構と再生医療への応用 5. p38MAP キナーゼの病態生理的機能の解析 6. 炎症性肺疾患の成立機構の解明と細胞治療の開発 7. 成体海馬由来神経幹細胞の in vitro 増幅法の開発と治療応用
横手 幸太郎 (細胞治療内科学)	1. 内分泌代謝病学 ① 内分泌・代謝性疾患における転写因子制御と疾患エピジェネティクス ② 骨芽細胞・破骨細胞機能制御と骨代謝性疾患 ③ ホルモン受容体と核内シグナルによる生体調節機構と破綻の分子メカニズム ④ 糖尿病・脂質異常症・肥満症と合併症 ⑤ 動脈硬化症発症機構の解明と新規治療法の開発 ⑥ 生活習慣病に伴う慢性腎臓病の成因と治療 ⑦ 前脂肪細胞を用いた遺伝子治療 2. 血液病学 ① 急性白血球発症の分子機構 ② 骨髄増殖性疾患における骨髄線維化の分子機構の解明 ③ 多発性骨髄腫の薬剤耐性機序の解明 ④ 同種造血幹細胞移植療法の確立 ⑤ Crow-Fukase 症候群の発症機構の解明と治療法の確立 ⑥ 造血器悪性腫瘍における新たな血清腫瘍マーカーの確立 3. 老化・老年病学 ① 早老症のメカニズム解明と治療介入 ② 酸化ストレスを標的とした脳、骨、骨格筋の老化予防 ③ 新しい高齢者医療の開発
下条 直樹 (小児病態学)	1. 小児内分泌疾患の病態・診断・治療に関する研究 2. 白血病・悪性新生物の病態・診断・治療に関する研究 3. 小児循環器疾患の病態・診断・治療に関する研究 4. 小児膠原病及び先天性免疫不全症の病態・診断・治療に関する研究 5. 小児免疫アレルギー疾患の病態・診断・治療に関する研究 6. 小児神経疾患の病態・診断・治療に関する研究 7. 小児感染症の病態・診断・治療に関する研究 8. 新生児疾患の病態・診断・治療に関する研究
(未 定) (内視鏡診断治療学)	[未定] (以下は前任の指導教員の場合である。) 1. 消化管癌の内視鏡診断と治療学に関する研究 2. 胆管・膵管の画像診断と治療学に関する研究 3. 超音波内視鏡の画像診断と穿刺細胞診断学の開発と普及への研究 4. 波長変換型新内視鏡システムの開発に関する研究 5. 共焦点内視鏡システム画像解析に関する研究
田川 雅敏 (分子腫瘍生物学)	1. 難治性腫瘍に対する遺伝子治療の基盤研究 2. 遺伝子治療および細胞治療の臨床開発研究 3. ウイルス増殖によって生じる細胞死の機構解析 4. サイトカインによる免疫応答機構の解析 5. 腫瘍に対する免疫治療の臨床開発研究 6. 悪性中皮腫に対する臨床試験研究
永瀬 浩喜 (分子腫瘍生物学)	1. 配列特異的DNA認識化合物による疾患治療薬開発研究 (抗がん剤・抗生剤開発) 2. 薬剤による遺伝子発現スイッチ、細胞表現型の変更・多能性幹細胞の誘導研究 3. エピジェネティクスを加味した遺伝機構図 (ジェネティック・アーキテクチャー) の解明 4. ヒト検体を用いたがんバイオマーカーの探索研究 5. 分子疫学研究, がん追跡調査 (コホート研究)・がん登録の応用研究 6. 発がん・がん感受性機構に関する研究 7. DNA損傷, 薬剤耐性に関する研究
花岡 英紀 (グローバル臨床試験学)	1. 医療のレギュラトリーサイエンスに関する研究 2. 医薬品、医療機器の有効性および安全性に関する研究 3. 医療行政の評価に関する研究 4. 臨床試験の医薬統計に関する研究

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
宇山 佳明 (医療行政学)	1. 承認審査のための効率的な医薬品開発戦略の構築に関する研究 2. 承認審査における医薬品評価の最適化に関する研究 3. 医薬品投与におけるゲノム薬理学の活用に関する研究 4. 医薬品評価に及ぼす民族差の影響に関する研究
櫻井 信豪 (医療行政学)	1. GMP査察手法等の国際整合性確保に関する研究 2. 医薬品のGMPガイドラインの国際整合化に関する研究 3. 再生医療製品の製造管理、品質管理に関する研究
古関 明彦 (免疫制御学)	1. エピジェネティック制御の分子メカニズムの解明 2. iPS細胞を用いた免疫治療モデルの開発 3. ヒト化マウスを用いたヒト免疫系の生体内動態のシミュレーション
大野 博司 (免疫制御学)	1. 腸管免疫における上皮細胞の役割の解明 2. 腸内細菌叢の生理的意義の解明 3. 細胞内小胞輸送機構の解明 4. 樹状細胞の免疫応答調節機構の解明と細胞療法への応用 5. 担癌宿主における腫瘍免疫機構の解明
谷内 一郎 (免疫制御学)	1. 転写因子によるリンパ球分化制御機構の研究 2. 発生工学を応用した疾病モデル動物の作製とその解析 3. 免疫システムの発生、進化に関する研究
藤井 眞一郎 (免疫制御学)	1. 自然免疫と獲得免疫の連結機構と細胞生存に関する研究 2. 樹状細胞を中心とする抗原提示細胞の分化、免疫シグナルに関する研究 3. 腫瘍免疫1（がん免疫抑制機構解明に関する研究） 4. 腫瘍免疫2（がん免疫賦活機構解明に関する研究） 5. がんに対する免疫療法の新規開発 6. がんに対する複合的免疫療法検討に関する研究 7. 感染症に対する免疫療法の開発
(未 定) (病原機能学)	〔未定〕（以下は前任の指導教員の場合である。） 1. 病原真菌の分子細胞シグナリング解析 2. 真菌の環境ストレス応答・細胞周期制御・薬剤耐性の分子機構解析 3. 分子細胞区真菌学、病原真菌学 4. 真菌シグナル伝達系の生化学・分子生物学・分子機能制御学
米山 光俊 (感染免疫学)	1. 感染に応答した生体防御誘導の分子メカニズムの解明 2. ウイルスセンサー分子による非自己核酸認識の分子機構 3. ウイルスセンサーを介した細胞内シグナルとその生理機能 4. 遺伝子改変マウスを用いた真菌センサー分子の生理機能の解明 5. 遺伝子改変マウスを用いた炎症性疾患発症機構の解析 6. Th17細胞と3型自然リンパ球の分化・機能解析 7. 腸内細菌・真菌叢による宿主病態制御 8. 免疫細胞による腸管上皮細胞の糖鎖修飾誘導・制御機構 9. 微生物による感染と共生機構の解明
亀井 克彦 (臨床感染症学)	1. アスペルギルス症を中心とした真菌症における病原因子と感染機構の研究 2. 真菌症の診断・治療法の研究 3. 真菌症の疫学及び抗真菌薬耐性機序の研究 4. 環境内の真菌の制御に関する研究（院内感染を含む） 5. 真菌に起因するアレルギー性肺疾患の研究 6. 輸入真菌症の疫学及び診断・治療法の研究
*五ノ井 透 (微生物資源学)	1. 真菌感染症における病原性発現機構・感染機構の解析 2. 真菌・放線菌のゲノム解析、系統解析、分子疫学的解析 3. 真菌・放線菌の2次代謝産物に関する研究 4. オミックス解析・生命現象の数理解析
橋本 謙二 (神経科学)	1. 精神神経疾患のバイオマーカー 2. 精神神経疾患の病態解明と新規治療法開発 3. 麻薬・覚せい剤精神病の新規治療薬開発 4. 脳機能におけるD型アミノ酸の役割 5. 栄養学から見た精神神経疾患の予防法の開発

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
(未 定) (司法心理学)	〔未定〕（以下は前任の指導教員の場合である。） 1. 非行少年・犯罪者のアセスメント 2. 非行少年・犯罪者の処遇論 3. 非行少年への心理援助的関与についての研究 4. 非行と虐待の関連の解明
五十嵐 禎人 (司法精神保健学)	1. 医療観察法の運用 2. 触法精神障害者の処遇システムの国際比較 3. 精神障害者の人権擁護 4. 刑事責任能力の判定 5. 成年後見制度における能力判定 6. 犯罪者の心理学的アセスメント 7. 刑務所収容者の精神保健
渡邊 博幸 (応用精神医療学)	1. 精神神経疾患薬物療法手順の開発 2. 精神神経疾患における再発予防法の開発 3. 精神神経疾患患者への多職種サービスモデルの開発
眞鍋 一郎 (長寿医学)	1. 生活習慣病における慢性炎症の分子機構 2. 組織マクロファージのエピジェネティック制御機構 3. 長鎖非コードRNA (lncRNA) 4. 臓器間連携による恒常性維持機構と病態 5. 心血管疾患・リンパ浮腫への新規治療法開発

4 年博士課程（先進予防医学共同専攻）

指 導 教 授 (研究領域)	研 究 テ ー マ
近藤 克則 (社会予防医学)	1. 健康の社会的決定要因に関する研究 2. 介護予防から終末期ケアに渡る老年学的研究 3. リハビリテーション医学・医療の研究 4. 介護・医療関連情報の「見える化」の研究 5. 医療介護政策・サービス研究
関根 章博 (オミックス解析応用学)	1. 家系を用いた（希少等）遺伝性疾患の原因遺伝子探索に関する技術開発とその臨床応用：全ゲノム情報からのアプローチ 2. 症例と対照を用いた生活習慣病などの多因子性疾患の易罹患性関連遺伝子探索に関する技術開発：広域ゲノム情報からのアプローチ 3. 上記の大規模データのbioinformatics（遺伝統計を含む） 4. 遺伝子診断に向けた高精度遺伝子型判定技術の開発 5. 高精度全ゲノム配列決定技術の開発
佐粧 孝久 (運動器疼痛疾患学)	1. 運動器疼痛疾患の病態解明 2. 運動器疼痛疾患の疼痛機序の研究 3. 変形性関節症の早期診断法の確立 4. 軟骨変性に対する早期介入の探究 5. 運動器疼痛疾患に関する損傷治癒メカニズムの解明
戸高 恵美子 (グローバル次世代 予防医学)	1. 環境中の化学物質の胎児・小児健康影響 2. リスク・コミュニケーション 3. 室内空気中化学物質の人体影響およびその削減方法の研究 4. 環境省「子供の健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の追加調査 5. 千葉出生コホート調査 6. 環境改善型予防医学（環境要因，化学物質問題に関して） 7. サステイナブル環境健康学に関する研究
森 千里 (環境生命医学)	1. 環境中の化学物質の健康影響，特に次世代への影響 2. 化学物質の胎児移行とそのメカニズム 3. 体内蓄積化学物質の削減方法の開発 4. 化学物質曝露指標のバイオマーカー検索 5. リスクアセスメント及びリスクマネジメント 6. 環境教育 7. ホルムアルデヒド曝露に関する研究 8. 化学物質削減住宅ケミレストアを用いた環境改善型予防医学の研究 9. 環境省「子供の健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」の追加調査
羽田 明 (公衆衛生学)	1. 川崎病の発症および重症化に関与する遺伝要因の同定とその臨床応用に関する研究 2. レセプトデータ，特定健診等を利用した観察研究 ① 社会的要因によるヘルスケアサービス利用に関する研究 ② ヘルスケアサービスの空間的アクセシビリティに関する研究 ③ B型肝炎再活性化に関する研究 ④ 抗生物質投与による健康関連事象の発生に関する研究 3. 希少難病の病因・病態の解明および診断と治療に関する研究 4. 多因子疾患の遺伝疫学的研究
諏訪園 靖 (環境労働衛生学)	1. 職域における健康管理に関する研究 2. 環境と人間との相互作用に関する研究 3. 有害物質の生体影響に関する研究 4. 微量元素の人体影響に関する研究 5. 職場におけるメンタルヘルスに関する研究
藤田 伸輔 (臨床疫学)	1. 地域医療需要推計 2. 地域医療体制設計 3. 地域疾病管理 4. 人口・疾病シミュレーション ① GIS（地理情報活用シミュレーション） ② 数理シミュレーション 5. ビッグデータ解析 6. 超高齢社会対応生活デバイス開発（共同研究）

4 年博士課程（先端医学薬学専攻・薬学領域）

備考 ※印の指導教員は平成29年4月1日以降変更予定

指 導 教 授 (研究室)	研 究 テ ー マ
山口 直人 (分子細胞生物学)	がんの分子細胞生物学的研究と遺伝子創薬の基盤研究 1. チロシンキナーゼの細胞内トラフィックスとオルガネラ局在選別 2. 核内チロシンリン酸化シグナルによるクロマチンダイナミックス 3. チロシンリン酸化シグナルによる細胞分裂と細胞周期チェックポイント制御 4. オルガネラ膜特異的チロシンリン酸化シグナル
伊藤 素行 (生化学)	1. 細胞間情報伝達機構 2. 神経細胞の分化と行動の発達機構 3. 細胞移動機構：形態形成とがん化 4. 細胞間情報伝達と代謝・老化 5. 老化と記憶低下
※平野 靖史郎 (環境リスク)	1. ナノ粒子・ナノマテリアルの生体影響に関する研究 2. 分子毒性学的手法を用いたハイテック・ナノテックに用いられる半金属元素の代謝機構の解明 3. 遺伝子発現を指標とした環境影響指標の開発に関する研究 4. 環境有害物質の暴露と細胞死の機構に関する研究
青木 康展 (環境リスク)	1. 高感受性動物を用いた環境化学物質の体内突然変異 (in vivo mutagenesis) 発現メカニズムの解明 2. 環境変異原物質を検出するための遺伝子導入魚の開発 3. ダイオキシン類の毒性発現に関与する遺伝子発現調節機構の解明 4. 環境有害因子の毒性発現およびその防御機構の解明
村山 俊彦 (薬効薬理学)	1. 神経伝達物質と薬物受容体に関する研究 2. 神経細胞応答と細胞内情報伝達の薬理 3. ホスホリパーゼの活性制御機序, 調節因子に関する分子薬理学的研究 4. スフィンゴ脂質やそのリン酸誘導体の生理・薬理作用の解析 5. 抗癌作用などを目的としたプロスタノイド受容体-シグナル伝達の解析
秋田 英万 (薬物学)	1. 低分子・高分子の体内・細胞内動態制御ナノ技術の開発 2. 癌免疫療法・遺伝子/核酸治療・診断法の開発 3. 人工染色体ベクターを用いて作製した薬物動態関連因子ヒト化マウスの代謝動態研究への応用 4. 三次元培養したヒト肝ガン由来細胞の核内受容体研究への応用 5. 次代創薬研究の技術基盤としての新規ヒト不死化細胞を用いたヒトモデルの確立
伊藤 晃成 (生物薬剤学)	1. 薬物毒性発現メカニズム解明に関する研究 2. 薬物毒性発現リスク予測に関する研究 3. がん細胞内エネルギー代謝と薬物感受性に関する研究
樋坂 章博 (臨床薬理学)	1. モデリングとシミュレーションを適用した臨床薬理学的研究 2. アルツハイマー病, メタボリックシンドローム等の疾患モデリングの研究 3. メタボローム解析を適用したガン増殖抑制に関する研究
佐藤 信範 (社会薬学)	1. 薬剤師及び薬局機能に関する研究 2. 後発医薬品の評価に関する研究 3. 妊産婦の薬物療法に関する研究 4. 医薬品情報の収集・評価・提供に関する研究 5. がん薬物療法に関する研究 6. 小児の薬物療法に関する研究
関根 祐子 (実務薬学)	1. 関節リウマチ患者における手術前後の抗リウマチ薬投与の影響に関する研究 2. 先発点眼薬と後発点眼薬の薬効評価に関する研究

指 導 教 授 (研究室)	研 究 テ ー マ
高野 博之 (分子心血管薬理学)	1. 心不全の病態解明と新規治療法の開発 2. 心疾患モデル動物の開発と病態解析 3. 虚血性心疾患に対する再生治療の開発 4. 血管新生の分子機序の解明 5. 動脈硬化の発症および進展における炎症・免疫機構の関与に関する研究 6. 高血圧治療や心不全治療の最適化を目指すための臨床研究 7. 心筋症・心筋炎の病理学的解析
石井 伊都子 (医療薬学)	1. 高脂血症における薬物動態に関する研究 2. 血管の異常に関する薬物代謝の変化 3. 薬物の投与設計に関する研究 4. 薬物治療の個別最適化のためのPGx研究 5. 薬物相互作用に関する研究

後期3年博士課程（先端創薬科学専攻）

指 導 教 授 (研究室)	研 究 テ ー マ
根本 哲宏 (薬化学)	1. 医薬品合成に有用な高効率分子変換法の開発 2. 合成プロセスの短工程化を実現する触媒的合成法の開発 3. 生物活性有機化合物の合成 4. エピゲノム異常制御の為に機能性分子合成
西田 篤司 (薬品合成化学)	1. 遷移金属，希土類金属を利用する新反応の開発と不斉合成への応用 2. 脂質代謝関連物質の合成と脳機能解明および新規抗マラリア剤開発への応用 3. 生物活性含窒素天然物の全合成研究と医薬先導化合物の設計と創製 4. 新規複素環ライブラリーの開発を目的とする固相および液相コンビナトリアル合成法の開発
高山 廣光 (生体機能性分子)	1. 薬用資源植物からの新しい活性分子種（創薬シード分子）の追求（主に含窒素天然物の単離，精密構造解析，構造変換） 2. 有用生物活性天然物の合成化学研究（不斉全合成，化学変換，構造修飾，効率的供給法の開発） 3. 創薬先導化合物の創製（天然物・合成品化合物ライブラリーを活用したメディシナルケミストリー研究，作用発現の分子機構の解明）
石橋 正己 (活性構造化学)	1. 生物活性天然物の探索と構造研究 2. 創薬・生命科学の進展に寄与する低分子化合物の分子設計・探索・創製，シグナル伝達分子を標的としたスクリーニング 3. 新規活性天然物の全合成・多様性志向型合成・ケミカルライブラリー合成，生物活性低分子の活性機構解明・天然物基盤ケミカルバイオロジー
森部 久仁一 (製剤工学)	1. 固体医薬品の性質に関する研究 2. 固体分散系中での医薬品分子状態の研究 3. 有機化合物のメカノケミストリー 4. サブミクロン粒子の調製と性質の検討 5. DDSキャリアーとしてのリポソームの研究
根矢 三郎 (薬品物理化学)	1. ヘムおよびヘムたんぱく質の物理化学的機能解析と生物無機化学 2. 生体分子と生体金属原子の実験的，理論的機能解析 3. 計算機支援による薬物設計 4. エイズ治療に向けたウイルス学的研究 5. 光線動力学的治療のためのポルフィリン化合物の分子設計
齊藤 和季 (遺伝子資源応用)	1. 薬用植物における有用物質生産の機構と制御の分子生物学的理解 2. ポストゲノム科学の新薬用資源開発への応用 3. 高等植物の環境応答と関連した物質代謝の分子機構 4. メタボロミクスを基盤としたシステム生物学 5. 生薬と漢方の情報学的解析

指 導 教 授 (研究室)	研 究 テ ー マ
中山 学 (遺伝子創薬学)	1. ゲノム改変技術の開発と疾患モデルマウスの創出に関する研究 2. ヒト一般病の関連遺伝子同定のためのコンデショナルノックアウトマウス・パイプライン構築に関する研究 3. 神経系で発現する巨大蛋白質群の包括的機能解析に関する研究
鈴木 秀幸 (遺伝子創薬学)	1. オミックス解析（トランスクリプトーム及びメタボローム統合解析）に必要な解析ソフトの開発 2. オミックス解析技術を利用した機能性代謝物の生合成研究 3. 機能性代謝物のメタボローム解析
川島 博人 (微生物薬品化学)	1. リンパ球体内動態と獲得免疫における糖鎖機能の解明 (1) 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた解析 (2) 新規抗糖鎖抗体を用いた解析 2. スギ花粉アレルゲンの糖鎖修飾に着目した新規花粉症治療法の開発 3. 糖鎖合成酵素欠損マウスを用いた大腸炎発症メカニズムの解明 4. 細菌感染と感染宿主応答の分子機構の解明 5. シャペロンによる機能蛋白質認識機構の解明 6. 抗菌薬耐性に関する研究
戸井田 敏彦 (病態分析化学)	1. 網羅的複合糖質糖鎖分析系の確立 2. 硫酸化多糖類の免疫系への作用 3. ポリアミンによる蛋白質合成促進機序 4. NMDA受容体の構造・機能解析とチャネルブロッカーの開発 5. 脳梗塞とアクロレイン
荒野 泰 (分子画像薬品学)	1. テクネチウム錯体の新規設計を基盤とするSPECTプローブの開発 2. 抗体やペプチドを利用したDDS 3. がん治療効果の早期判定および治療指針選定に有用な分子イメージングプローブの開発 4. ガリウムを用いたPETプローブの新規開発
小椋 康光 (予防薬学)	1. 生体による類金属元素代謝の分子基盤の解明 2. 重金属結合依存的な転写誘導機構の解明 3. 細胞分化に伴うメタローム解析とその応用 4. レアメタルのリスクアセスメント 5. 疾病の診断・治療のための新規機能性分子の開発 6. タンパク質の発現・輸送を可視化する蛍光ラベル化法の開発 7. 光化学反応に関する研究と生体への応用